

発 言 者	議 事
議 長	〔 3 月 6 日 〕 皆さん、おはようございます。（ 1 0 : 0 0 ）
議 長	ただいまの出席議員数は 9 名であり、定足数に達しておりますので、平成 3 1 年第 1 回厚沢部町議会定例会を開会します。
議 長	これより本日の会議を開きます。
議 長	日程第 1 会議録署名議員の指名を行います。
議 長	会議録署名議員は、会議規則第 1 1 8 条の規定により、4 番浜塚久好議員、9 番山崎孝議員の 2 名を指名します。
議 長	日程第 2 諸般の報告、日程第 3 一般行政報告については、別紙印刷して差し上げておりますので、朗読及び説明を省略します。
議 長	日程第 4 会期の決定について議題とします。
議 長	お諮りします。本定例会の会期並びに議会運営については、所管の議会運営委員会において協議されておりますので、委員長から報告を求めることにしたいと思いますが、これにご異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議 長	異議なしと認めます。
議 長	委員長の報告を求めます。
議 長	中山委員長
議会運営委員長	議会運営委員会委員長報告を申し上げます。

議 長	<p>去る2月28日午前9時議会運営委員会を開催しました。</p> <p>本日をもって召集されました平成31年第1回厚沢部町議会定例会の議会運営につきましては議事日程によることとし、会期については本日から3月8日までの3日間とすることに決定しましたので報告します。</p> <p>平成31年度予算案につきましては、議長を除く議員全員による特別委員会を設置して審議することにしました。</p> <p>特別委員会の正副委員長の選出方法については指名推薦とし、議長において指名することとしました。</p> <p>各会計の新年度予算の質疑については、一般会計予算については歳入歳出ともに款ごとに、各特別会計については歳入歳出ごとに質疑をすることにしましたので、御了承願いたいと思います。</p> <p>次に、一般質問については、2名の通告がありました。</p> <p>意見書案については、お手元に配付のとおり提出することにしましたので、御賛同よろしくお願いたします。</p> <p>あらかじめ関係資料をつけて御覧いただいておりますので、一括議題とし、朗読及び質疑討論を省略することにします。</p> <p>提出案件の審議については、質問者、答弁者とも簡潔明瞭な質疑、答弁に心がけ、円滑な議会運営が行われますよう御協力をお願いし、委員長報告といたします。</p> <p>お諮りします。本定例会の議会運営については、委員長報告のとおりとし、会期は本日から3月8日までの3日間にしたいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）</p>
-----	--

<p>議 議 議 議 町</p>	<p>長 長 長 長 長</p>	<p>異議なしと認めます。したがって、会期は本日から3月8日までの3日間と決定しました。</p> <p>提出案件は、議案第1号平成31年度厚沢部町一般会計予算から議案第14号平成30年度厚沢部町国民健康保険病院事業特別会計補正予算まで予算案14件、条例の制定及び一部改正案9件、町道路線の変更及び認定案2件、人事案1件、意見書案1件の計27件であります。</p> <p>町長から提案理由の説明について発言を求められておりますので、これを許します。</p> <p>町長</p> <p>平成31年第1回厚沢部町議会定例会の開会に当たり、一言御挨拶と提案理由を申し上げます。</p> <p>初めに、このたび議会議員として、長年にわたり地方自治の振興発展に寄与された功績により全国町村議会議長会より表彰を受賞されました鈴木議長、中山議員、山崎議員、高田議員の皆様には、心よりお喜びを申し上げます。これからも、厚沢部町発展のために、より一層の御活躍を御祈念申し上げます。</p> <p>先週、世界でも注目されていた米朝首脳会談がベトナムのハノイで行われましたが、北朝鮮の非核化とアメリカの制裁解除をめぐり合意に至らないまま幕を閉じました。昨年の会談で合意された完全な非核化が先行き不透明な結果となり、日本にとっては、核ミサイルと並び拉致問題の進展遅れが懸念されるところであります。東アジアの平和と安定の維持が大きかった分、残念至極であります。</p> <p>さて、去る1月28日、第198回通常国会が開会し、安倍総理は、施政方針演説で毎月勤労統計の不正調査問題に関し国民へ陳謝した上で、雇用保険などの追加給付と再発防止や統計の信頼回復に全力を尽くすとしたところであります。</p>
---------------------------------------	---------------------------------------	---

また、10月に消費税率を10パーセントに引き上げる方針を明言し、少子高齢化を克服し、全世代型社会保障制度を築き上げるため安定的な財源が必要と、このように理解を求めたところでもあります。

この中で全世代型社会保障について、少子高齢化が我が国の維持的、持続的成長にとって最大の課題とした上で、子育て世代の支援では小・中学校の普通教育無償化以来70年ぶりの大改革として、10月からは3歳から5歳までの幼児教育、保育の無償化、来年4月からは低所得世帯の学生を対象とした高等教育無償化を掲げております。

また、急速に高齢化が進む中で、現役世代の家族介護の安心確保のため、介護離職ゼロを目指すとともにロボットを活用するなど介護現場の負担軽減を進め、2020年初頭までに50万人分の介護の受け皿を整備するとしております。

高齢者については、年金収入が少ない方々を対象に、65歳以上の介護保険料を10月から負担額を3分の2程度に軽減するとともに、新たに福祉給付金を年間最大6万円支給し、所得を確保することとしております。

さらに、消費の下支えのために、軽減税率の導入、プレミアムつき商品券発行、キャッシュレス決済によるポイント還元、自動車や住宅への大幅減税を行うこととしております。

そして、安倍総理は施政方針演説の中で農こそ国の基ですと述べて、若者が夢や希望を持って飛び込んでいける強い農業をつくるため、これまでの政策をさらに力強く展開するとしております。農業が基幹産業である本町において、明るい方向へ向かうものと大きな期待を寄せております。

平成31年度の国の当初予算案は、消費税増税対策を初め社会保障費や公共事業関係の伸びな

どで前年度当初対比3.8パーセント増の101兆4,571億円、初めて100兆円を超え過去最高となりました。

歳入では消費税引き上げや景気回復による影響を反映し、税収は5.8パーセント増の62兆5,000億円と過去最高を見込むほか、新規国債の発行額は3.1パーセント減の32兆7,000億円となりました。国債発行額は減っておりますけれども、昨年末で国の借金は1,100兆円、国民1人当たり871万円に達しております。

一方、歳出では政策経費が77兆9,000億円で、そのうち社会保障費は3.2パーセント増の34兆1,000億円、公共事業費は15.6パーセント増の6兆9,000億円となっております。

政府は、目標としていた2025年度までの基礎的財政収支の黒字化達成の見込みが立たず、1年先送りとした試算を公表したところであります。財政再建を含め、今後とも増え続ける社会保障費に対応した国民負担のあり方がさらに議論をされるべきものと考えるところであります。

また、地方財政対策については、前年度対比2.4パーセント増の89兆3,000億円を見込み、本町の一般財源の過半を占める地方交付税については、国税収入の増加を見込み1.1パーセント増の16兆2,000億円と2年ぶりの増額となりました。

国からの地方交付税を補完する臨時財政対策債は、国税、地方税ともに増加すると見込み18.3パーセント減としたところであります。しかしながら、景気回復が波及されにくい地方税が伸び悩む過疎の小規模市町村にとって、厳しい財源運営が予想されるところであります。

次に、北海道の新年度予算は、統一地方選挙を4月に控え政策的経費を除く骨格予算であり、前年対比5.1パーセント減の2兆6,097億円となっております。義務的経費では前知事時

代から続けてきた道職員給与の削減も3月末で終え、人件費は1パーセント増の5,700億円で、公債費では3.6パーセント増の7,700万円となり、その残高は今年度末見込みで5兆7,800億円であり、北海道は借金返済額の割合が高く全国最下位であり、人口減や高齢化で税収が落ち込む一方で社会保険関係費は膨らみ続けることを考えると厳しい財政状況であり、引き続き次期知事に財政再建が委ねられるところであります。

次に、本町の新年度予算について申し上げます。

本町におきましても統一地方選挙の年であり、原則として、事務執行上、必要な事務的経費と国及び道の継続認定されている事業等を中心とした骨格予算を編成しております。そのため一般会計と6特別会計を合わせた総予算額は61億6,163万1,000円となり、前年度当初予算に比較して9億4,610万9,000円、13.3パーセントの減額となっております。

次に、本定例会に提案いたします案件については、新年度予算案7件、補正予算案7件、条例案9件、町道路線の認定1件、町道路線の変更案1件、人事案が1件の計26件であります。

議案第1号の平成31年度厚沢部町一般会計補正予算につきましては、予算総額が38億8,200万円で前年度当初対比8億100万円、17.1パーセントの減少であります。なお、これに道営事業費と前年度からの繰越明許事業費を加えた実質予算額は41億1,042万6,000円となります。

歳出の性質別内訳の主なる増減は、増額は物件費では統一地方選挙を含めた選挙費、ふるさと納税業務委託料や戸籍総合システム機械等購入費でおおよそ3,600万円、公債費が認定こども園に充当の過疎債が伸び、おおよそ5,200万円ほどであります。

減額は、補助費等がおおよそ1億6,400万円、普通建設事業費が7億3,200円ほど、繰

出金が3,200万円ほどであります。主なる要因は、骨格予算で政策的経費が未計上であるほか、認定こども園の完成と他会計による事業費の減額に伴うものであります。

目的別では、商工費が道の駅整備事業で8,000万円、公債費が5,200万円ほど増額となっており、減少は民生費が8億1,100万円、衛生費と農林水産業費、土木費、教育費が2,000万円台、消防費が4,000万円台ほどで、大型事業の完了や政策的経費の未計上が主なる要因であります。

歳入については、町税はほぼ平年、30年度実績並みを見込み、前年度当初対比2.5パーセント減のおよそ4億円を計上しております。

地方交付税は、今後の政策的予算量に備えて前年度当初対比1,700万円、最終補正対比では3億5,000万円ほど減らした19億5,200万円を計上しております。

国庫支出金は、道の駅周辺整備にかかわる交付金を見込み1,700万円ほど、道支出金は農地耕作条件改善事業費補助金、参議院議員選挙委託金を計上しており、1,300万円ほどの増額。

寄附金は、ふるさと寄附金が顕著に伸びており1,500万円の増額、繰入金は、昨年度の認定こども園整備事業費充当の公共施設整備基金が減額となり1億2,800万円ほど減額となっております。

町債につきましても、認定こども園整備事業にかかわる過疎債が減少となり、6億9,600万円ほどを減額計上しております。

議案第2号の国民健康保険事業特別会計については、保険給付費及び給付金などの減額を見込み前年度当初対比812万8,000円、1.4パーセント減の5億7,190万円を計上して

おります。

議案第3号の後期高齢者医療特別会計については、ほぼ前年度並みの後期高齢者医療広域連合給付金を見込み、前年度当初対比128万5,000円、1.8パーセント減の6,902万8,000円を計上いたしました。

議案第4号の介護保険事業特別会計については、保険事業勘定とサービス事業勘定を合わせて予算総額を6億4,127万2,000円とし、保険給付費の増額を見込み、前年度当初対比717万1,000円、1.1パーセント増を計上いたしました。

議案第5号の簡易水道事業特別会計については、水道施設整備事業費の減額を見込み、前年度当初対比8,163万3,000円、19.7パーセント減の3億3,310万9,000円を計上いたしました。

議案第6号の農業集落排水事業特別会計については、厚沢部地区及び赤沼地区の終末処理施設機能強化対策工事費の減により、前年度当初対比4,367万1,000円、20.3パーセント減の1億7,148万4,000円を計上いたしました。

議案第7号の国民健康保険病院事業特別会計については、収益的収支と資本的収支を合わせた予算の総額は4億9,354万8,000円で、前年度当初対比1,756万3,000円、3.4パーセントの減額を見込みました。主な要因は、看護師等人件費と機械及び備品減価償却費の減額であります。

議案第8号の平成30年度厚沢部町一般会計補正予算につきましては、2億694万2,000円を追加し、予算の総額を51億5,293万9,000円とするものであり、事務事業の確定と今後の主要見込み額を勘案しながら各項目の増減調整を図っております。

増額の主なものは、総務費では公共施設整備基金、減債基金及びふるさとづくり基金への積立金、衛生費では国保病院会計繰出金であります。

議案第9号から議案第14号までの平成30年度各特別会計補正予算については、それぞれ今後の収支見込みを勘案し増減調整を図っております。

議案第15号の厚沢部町議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例、議案第16号の特別職の職員である常勤のものとの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、人事院勧告に基づき職員の手当を改正しようとするに伴い一部改正するものであります。

議案第17号の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、人事院勧告に基づき一部を改正しようとするものであります。

議案第18号の厚沢部町認定こども園条例の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定につきましては、町内各保育所が廃止され、新たに4月1日から認定こども園が開設されることにより関連する3本の条例を一括して一部を改正するものであります。

議案第19号の学校教育法の一部改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定につきましては、本年4月から専門職大学制度が創設されることにより関連する2本の条例を一括して一部改正をするものであります。

議案第20号の厚沢部町介護保険条例の一部改正する条例の制定につきましては、介護保険法の一部改正する法律の施行に伴い一部を改正しようとするものであります。

議案第21号の厚沢部町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例、議案第22号の厚沢部町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び

<p>議 議 議 議</p>	<p>長 長 長 長</p>	<p>運営並びに指定地域密着型介護予防サービスに係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について、指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等の一部を改正する条例の施行に伴い所用の基準額を改正しようとするものであります。</p> <p>議案第23号の厚沢部町職員のうち医師の職にあるものの給与に関する条例の一部を改正する条例の制定につきましては、副院長及び医師の月額給料の上限を変更したく一部改正しようとするものであります。</p> <p>議案第24号の町道路線の認定及び議案第25号の町道路線の変更につきましては、それぞれ道路法第8条第2項及び第10条第2項の規定により1路線の認定と7路線の延長などを変更しようとするものであります。</p> <p>諮問第1号の人権擁護委員の推薦につきまして意見を求めることにつきましては、所定の任期満了による退任に伴い、後任の推薦について人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものであります。</p> <p>以上が本定例会に提案いたしました議案の概要であります。</p> <p>詳細につきましては、副町長関係課長に説明に当たらせてますので、御審議の上、御賛同賜りますようよろしくお願いを申し上げます。</p> <p>日程第5 一般質問の通告がありましたので、発言を許可をします。</p> <p>発言の順序は受付順とします。</p> <p>それでは、最初に、9番、山崎孝議員</p> <p>9番、山崎議員</p>
----------------------------	----------------------------	---

山 崎 議 員

議長の許可をいただきましたので、2点について質問をいたします。

質問の初めに一言申し上げたいと思いますが、暖かい日が続きまして、一日一日と春めいてまいりました。春の3カ月予報では、温暖な日がこれからも続くということでもあります。去年は異常気象で、我々の町の基幹産業であります農業が大きな影響を受けた年でありました。今年は、この1年、豊穡の1年であってほしいというふうに思っているところであります。

きのう5日、高校の入試がございました。本町の子供たちも頑張ったことだろうというふうに思っているところでもあります。また、行政の直営であります公営塾の真価が問われるときでもあったというふうに私は考えているところでもあります。必ずよい結果が出るものと期待をしているところでもあります。

さて、この4月には統一地方選挙がございます。ふるさと発展のために、いろいろな方々の目的が成就されるよう念じているところでもあります。

また、この5月には、新しい時代が始まります。新しい時代は、平和で安全・安心なそういう時代であってほしいなということを祈念をしたいと思っている次第であります。

それでは、質問に入りたいと思います。

まず、質問の第1点目であります。人口減少問題対策におけるK P I（重要業績評価指標）の検証結果についてであります。

人口減少時代の到来が大きな社会問題になっています。我々は地域のこれからの変化、将来の変化をしっかりと読み取ることが大事であり、地方創生におけるスタートの基本になるものと考えています。

本町の人口減少は歯どめがかかりません。人口減少は地域を疲弊させる大きな要因ともなりま

す。昭和35年の厚沢部町人口は1万651人がピークでありまして、その後は減少の一途であります。本町の人口の動向は、平成30年末では3,882人であり、58年の経過で6,769人の人口減少であります。近々の人口動向は、平成29年は4,001人でありました。平成30年は3,882人であり、1年間で単純計算しますと119人の減少であります。

人口減少、地域経済の縮小対策として、2015年から政策目標や施策の基本方針を示した総合戦略を策定いたしました。しかし、人口減少の現実を直視したとき、総合戦略の効果は実感できません。

社人研の人口推計によりますと、これは2018年の推計であります。本町の人口は2030年には2,822人、2040年には2,128人であり、自治体としては運営に支障が出る懸念があるとしております。人口減少は町の経済活動にも大きな影響を与え、就業者数、商店数、年間の販売額も減少することが懸念されます。

そこで、人口減少対策として、以下6つの点について町長の所見を伺います。

まず、1番目としましては、人口減少社会の行政としてのリードの仕方です。

2点目としましては、人口減少で産業が衰退をし、政策資源が充足しなくなる懸念についてです。

3点目としましては、生産年齢人口の減少に対する対応策です。

4点目としましては、人口減少対策についての政策誘導です。

5点目としましては、限界集落でのコミュニティの再構築です。

6点目としましてはKPI（重要業績評価指標）の検証結果についてです。

この6点を中心にして町長の所見を伺いたいと思います。

<p>議 町</p>	<p>長 長</p>	<p>町長</p> <p>山崎議員から人口減少対策K P Iの検証結果についてという質問であります。</p> <p>その中で、まず1点目の人口減少社会の行政としてのリードの仕方についてであります。人口減少問題は、町の将来を左右する最重要課題であるというふうにも認識をしております。人口減少の流れをとめるということは容易ではありませんけれども、減少の加速化を食いとめることが必要であると、このように考えております。</p> <p>国、北海道、近隣自治体を初めとし、関係機関、さらには町民とともに問題意識を共有しながら、本町のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中に位置づけております。その位置づけている大きな表題としては、安定した雇用と地域経済の好循環の実現を図る。次には移住・定住に関する希望の実現。3点目は、若い世代の結婚、子育て等に関する希望の実現の3つの目標を定めて、将来の方向性にに基づきながら時代に合ったまちづくりを計画的、一体的、継続的に取り組むことが人口減少の克服につながるものだと、このように思います。</p> <p>2点目の人口減少で産業が衰退、政策資源が充足できなくなる懸念ということでもありますけれども、町財政の話だと思いますが、人口の減少によって地方行財政にも大きな影響があります。自主財源となる税収の減少や高齢化による社会保障費の増加など行政サービスの見直しが予想されるところでありまして、国の基本理念にもあるとおり、日常生活の基盤となる行政サービスについては、需要と供給を長期的に見直しながら住民負担の程度を考慮し、住民の理解と協力を得ながら将来にわたってサービスの提供を維持していかなければなりません。限られた財源を有効に賢く使う選択と集中をもって施策に取り組んでまいります。</p> <p>3点目の生産年齢人口の減少に対する対応策についてであります。15歳から64歳までの</p>
----------------	----------------	--

人口減対応策であります。本町の総合戦略で4本の基本目標を定め、それぞれ関連する具体的施策を設定しているところであります。特に妊娠、出産、子育てにつきましては、経済的支援、公営塾や認定こども園の整備など子育て環境整備を実施し、結婚、出産、子育ての希望をかなえる施策の取り組みをしているところであります。

今後も出生数や転入増となる魅力あるまちづくりを目指し、町の財政状況を考慮し、町民負担の増とならないようバランスを考えて、雇用機会の創出、住宅、子育て、教育の分野で若者が定住し、結婚し、さらには子供が生み育てやすい環境づくりに取り組んでまいりたい、このように考えているところであります。

4点目の人口減少対策についての施策誘導についてであります。

人口減少化におきましても、将来とも持続可能な生活基盤や社会福祉サービスの提供を実現するためには、住民の理解を得ながらある一定の集約化を進める視点が大切であります。地域住民、保護者、議員各位の理解をいただき、各中学校、保育所は統合の運びになりました。施設の機能集約化は行財政的にも必要であり、小学校につきましても、地域住民や保護者への十分な説明理解のもとで検討が必要なところであるというふうに考えております。

5点目の限界集落でのコミュニティの再構築についてであります。地域で安心して暮らしていくために地域コミュニティの役割は大変重要であります。しかし、高齢化や人口減少によりコミュニティ活動への参加者や活動メンバーが固定化されている実態もあります。

地域の活力とは単に年齢で判断すべきではなく、地域住民の活発な交流や助け合いなどかたいきずなが大切であるというふうに考えております。組織や活動の維持困難な町内会においては地域コミュニティの範囲の再編等も考えられるところでありますけれども、地域コミュニティの地

域づくりは地域住民が主体となることが基本で、住民による地域の現状認識、今後の地域づくりの方向性を地域で議論をすることが重要である、このようにも思います。

6点目のK P Iの検証結果であります。これまで実績として、「安定した雇用と産業を創出する」では、主なるものが新規就農者への支援、アンテナショップの開設、サツマイモ等による農産加工品の開発、プレミアム商品券の発行、農産物新規ブランド化に向けた支援などを今実施しているところであります。

次に、「厚沢部町への新しい人の流れをつくる」では、都市部から移住促進のためにC C R Cの実現に向けた環境整備として、移住・二地域住居のための移住体験住宅の整備、交流人口の拡大として各大学のアウトキャンパス事業、小学生修学旅行誘致、道の駅再編整備などを進めておるところであります。また、空き家の利活用につきましては、ちょっと暮らしや賃貸で2軒の利活用を今しております。

次に、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」では、不妊治療助成や出産祝い金支給による支援、子育て世代の学校給食費や医療費助成、持ち家建設奨励金の住宅支援、都市部との同等の教育機会の実現としての公営塾の開設、交流出合いの場としての「出合い・賑わい・元気づくり事業」を実施しております。また保育環境の充実では、いよいよ4月からの認定こども園が開設されるところであります。

次に、「時代に合った厚沢部町をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域間連携を図る」では、新たなコミュニティを形成するため、多世代交流できる環境整備として上里ふれあいセンターが完成し、また総合給食センターが運営開始をしており、拠点整備を進めているところであります。

議 長 山 崎 議 員	<p>地域間連携については、医療や観光などの連携効果を発揮するため函館市を中心とした定住自立圏形成協定事業や、管内7町連携による東京都大田区との連携事業を積極的に推進しているところであります。</p> <p>しかし、残念ながら人口の減少は続いていることも事実であります。平成31年度までの計画の基本目標に沿ったそれぞれ具体的な各施策を社会情勢や財政状況を見きわめながら進めてまいりたい、このように考えております。</p> <p>なお、国では第2期総合戦略の策定に向けて検討に入っているとのことで、6月ころには方向性を示すというふうになっております。これを受けて本町におきましても、第2期のまち・ひと・しごと創生総合戦略へ向けた見直し検討を進めたい、このようにも考えているところであります。</p> <p>以上です。</p> <p>9番、山崎議員</p> <p>何かしら自分でも質問しながら、余りにも課題が大き過ぎてちょっと頭の整理がつかない状態で今いるわけであります。</p> <p>1つ目は、私ここに立っているわけではありますが、これが平成最後の質問になるわけあります。そんなことで、よろしくご指導願いたいと思います。</p> <p>今町長も答弁の中で触れられましたけれども、本町にとって、この人口減少問題というのは最重要課題だというふうに私自身も捉えているところあります。</p> <p>そこで、本町の人口動向を先ほど私も質問の中で触れましたけれども、58年間で6,769人の減少があったという、そして、いまだにまだ100人以上の減少が続いているという、この</p>
----------------	---

議 町	<p>認識をどのようにお持ちでしょうか。</p> <p>町長</p> <p>今山崎議員が言われるように、厚沢部町58年間のまちづくりの中で大きな減少というのは、山崎議員も御承知のように、昭和の時代は厚沢部町、開拓導入の時代でありました。したがって、開拓者のいる各地域に導入した方々も大変な大きな数が導入されて1万を超えたという経緯がございます。</p> <p>しかしながら、開拓行政、国の施策の中で各開拓というのはことごとく、北海道ばかりでない全国の中での開拓というのが崩壊してしまったと、こういうふうな状況が現実あるわけであり、それに伴う減少というのは、これは昭和の時代の大きな減少の要因であります。</p> <p>それから、この5年間さらなる減少が続いている。これは我が町の地域性もあります。御案内のように、厚沢部町の人口減少の大きなものは学生の流出であります。これは、厚沢部町の子供たちは全体の中で江差高校へ進むのが約半分。あとの半分は函館市、札幌市方面に進むという、この教育環境によりまして、これは年々減少してきていると、これが現実であり、さらなる大きなものは、ちょうど厚沢部町は、今10年前から入植者、あるいは住民それぞれの高齢化が極端に早く進んだ町であり、この高齢化、今現段階、去年、おととしともに60人台の死亡者があるわけであります。そして、逆に生まれる子供は20人切れるくらい。したがって、そのギャップというものは大きなギャップになるわけです。</p> <p>しかしながら、この程度の減少でおさまっているのは私は意外にラッキーな結果であると、このように思っております。</p> <p>最近では、カンボジア等のそういう海外からの今農業研修生の入れ込みだとか、あるいはいろ</p>
--------	--

<p>議長 山崎議員</p>	<p>いろ今ちょっと暮らしで来ておられる方、あるいはもろもろのこういう政策の中で厚沢部町に定着していただいている体があって、ようやくこの程度の減少でおさめているというのが実態であります。</p> <p>今言われるように、現段階までは大きな減少が示されたわけであり、したがって、この減少さらなる縮小を図る、あるいは言うなれば、できれば増に転換させると、こういうふうな対策が必要であるというふうに考えているところであります。</p> <p>9番、山崎議員</p> <p>私は今日ここで質問に立ったのは、確かに町長言われるみたいにして人口を減少をとめる、増加をさせたいという、そういう気持ちは十分に伝わってきましたけれども、それは現実問題として、そういうふうにならないから私はこういうふうに質問しているんですよ。</p> <p>これから100人以上の減少続きますよ。なぜならば、人口減少の要因というのは、私自身もこっちは勉強させてもらいましたけれども、まず出生率が低下しているということなんです。そして、出生率が低下することによって若い人の人口層が減少していきますね。そして、それが進んでいくと少子化になるんです。少子化になると出生率が下がっていく。そうすると、また次の生産年齢人口が減っていくという、その繰り返していくために人口がずっと減っていくんです。それが現実、厚沢部町の今の問題回避というような策は何かありますか。私はないような気がします。</p> <p>そして、私がすごく今回のこの質問しなきゃならないという動機となったのは、この厚沢部町に平成27年12月に厚沢部町人口ビジョン及び厚沢部町まち・ひと・しごと創生総合戦略というものが、すばらしいこういうのができているんですよ。ところが、ある新聞に、この地方創生</p>
--------------------	---

<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総合戦略というのが自分のところでつくったんでなくて、77パーセントが外部のコンサルに委託をしてつくったもらったものだという、そういう見出しがあるんです。</p> <p>我が町はそうでないと思いますけれども、そこでお伺いしたいと思いますが、立派なこういう総合戦略をつくっていますけれども、この策定したプロセスがどのようなプロセスでつくられたのか、それを紹介してください。</p> <p>総務政策課長</p> <p>この総合戦略最終版に至るまでは、まず、役場の若手職員のプロテクトチームが最初にかかわってございます。たしか3回から4回程度の研修もそうですけれども、研修行きながら我が町の総合戦略のもととなるたたき台をつくり上げて、その後、今の総合戦略の策定委員会の中でそれらも参考にしながら、これらの施策等も含めて完成されたというふうに認識してございます。</p>
<p>議 長 山崎議員</p>	<p>9番、山崎議員</p> <p>そうすると、地方創生のこの総合戦略というのは、我が町は、今課長が言われたように、そういう職員がみずから汗を流してつくられたということで理解してよろしいですね。それとも、コンサルとかいうような、そういうような何かどこかの知識を得たんですか。そうでないですね。それ確認します。</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長</p> <p>まず、国が基本的な考え方を各市町村に、国の方針に沿った形での各町の総合戦略をつくるという形になっておりますので、うちの基本目標としております4つの案を打ち出しておりますけれども、これに沿って具体的な施策について各町でつくりに上げてきたものというふうに認識してございます。</p>

<p>議 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>今総務課長説明したとおりでございまして、みずからの手でみずから汗を流してつくったということでございます。</p> <p>原案は、先ほど申しましたとおり職員レベルでの作成と。そのとき国のほうの言い方としては、産官学金労言と、このメンバーを入れてつくりなさいよということでしたので、産業関係ではJA、商工会、素敵な過疎づくり、官関係では檜山振興局、私も入っていますし、前の教育長も入っております。それと総務文教委員、農業委員ということでございます。</p> <p>学のほう、学問のほうであります社会教育委員長、そして金は江差信金、労は労働のほうでございまして、これがちょっとどこということがなかなか大変だったんですけれども、役場の職員組合を入れて、言、報道関係につきましては、いろいろおつき合いあった名古屋のほうの会社のメンバー、厚沢部町をよく知っている方でございますので、それを中心に、そのほか住民5名でトータル17名で委員会の構成メンバーを入れてつくっております。</p> <p>住民のほうは、町内会長なども入ったんですけれども、若手の意見を取り入れるということで、協力隊で来ていました当時学生2名を入れて作成に至ったということでございます。</p>
<p>議 議 農 林 商 工 課 主 幹</p>	<p>副町長、コンサルには委託してないということでいいんですね。</p> <p>農林商工課主幹</p> <p>まず、私から答弁いたしますのは、当時、総合戦略をつくる際に私が中心となって取り進めたという経緯からでございます。</p> <p>まず、コンサルへの委託ということですが、作成全体のコンサルの委託ということはありません。作成は、先ほど副町長からも答弁ありましたとおり、職員が汗水流して考えながらつく</p>

議 長
山 崎 議 員

ったものでございます。ただ、一部データの統計だとか、そういうところにつきましては業者に委託していますので、冊子をつくるという意味では全く委託はしておりません。

以上です。

9 番、山崎議員

いろいろ読み返してみますと、大変本当に素晴らしいことが書いてあるんですね。ただ問題は、この戦略に対して、やっぱり何回も何回も議論を重ねて、みずからの政策として取り組んでいかなきゃならないというふうに私は思います。

1 つは、この人口減少対策というのは、一朝一夕にはすぐ解決できるような問題でないですよ。かなり長い時間を、先を読んで、その政策を今打っていかなきゃならないわけでありまして。そうでないと、人口減少対策にはならないというふうに私自身思っています。

そして、この創生総合戦略の中に議会の関与ということも触れられているんです。私は余り議会の関与、そういうのについては記憶ないんですが、この議会の関与については、厚沢部町の総合戦略については議会と執行部が車の両輪となって推進する必要があり、業務執行、効果の検証、計画の見直し段階においても議会への情報提供を行い、十分な意見の反映が行われることが重要となりますというふうにあるんですけれども、何かしら私どもはそういうような記憶がないんですが、どうですか。

そういうような格好で、本当におらが町のこの総合戦略というふうにして認知できるんですか。

ですから、私は、ある意味では人口対策にならなくて、どんどん人口が減っていく。それをブレーキかけることはできないのかな、そんな気持ちを持っています。そして、これからも減って

議 副 町 長

いくと私は思っているんですよ。

ここについて最近のデータがあります。これは財務省の函館市の所長でありますけれども、これは、もう2040年では、今から20年ぐらい先で2,128名まで厚沢部町は人口が減少すると言っていましたよ。それから、2045年には2,000人切って1,800人台ですよ。だって、このまま120で減ったら10年たったら1,000人減るわけでしょう。これをどう捉えているかということですよ、問題は。

そして、先ほども言いましたように、大事なものは、これからの地域が人口減少することによってどう変化していくかということ。将来について、例えば10年、20年の将来はどう町が変わっていくのかという、それをきちっと捉えて政策の中に組み込んでいかなきゃならないだろうなと私は考えます。

私のこの考えに対して、どなたか御指導願いたいと思います。

副町長

まず、議会との関係でございますが、地方創生事業が創設されるというときから、こういう地方創生事業の概要ですよということを議員に向けて説明してまいりましたし、人口ビジョン、そして、地方創生対策案につきましても、きちんと説明してきたところだと思っております。

そして、単年度、単年度につきましては地方創生という予算の目をくって、そこでこういう事業を進めますよということで説明してきたところだというふうに私は理解しておりました。

それと人口の減少につきましては、地方創生を日本の国で進めてから4年目になるわけですが、東京都の一極集中というのはかえって進んでおります。これは厚沢部町が減るとか何とかじゃなくて、東京都の一極集中は進んでいる。特に若者については、働き方改革、労働力不

足もあって集中には拍車がかかっているという、残念ながらそういう状況でございます。東京都一極集中をやめるという目的が一番あったんですけれども、実際はこのような状況だということでございます。

それと、全く今までの効果がないというようなお話でございましたが、おっしゃるとおり、人口は減少しております。ただ、社人研の推計というのは国勢調査でやっているのが主体でございます。国勢調査というのは10月1日現在の人の数ということでございます。

ですから、来年、再来年度の10月にははっきりするわけですが、今年の10月1日現在で住民基本台帳のほうの比較と人口等、社人研の推計を比べますと、ベースが違うんで単純な比較はできないんですけれども、住基上の人数のほうは110人くらい上回っているということでございまして、国調と住基とやると、どうしても国調のほうが低くなるんですけれども、今年の10月現在で社人研と住基を比べると110人くらい上回っているという状況でございますので、全く何も効果がなかったのかということそうではない。それぞれ今までやってきた施策の一つ一つが、これだということでは限らないと思うんですけれども、施策の一つ一つがこういう状況になっているのかなというふうに思っております。

議 長
山 崎 議 員

9番、山崎議員

これは町長にひとつ伺いたいと思いますけれども、いろいろ我々も情報ない中で推測するわけですが、人口減少していくと、例えば厚沢部町の人口が5,000人のとき、それから3,000人のときと、こうなることによって例えば交付税もどんどん下げられるようなこういう動きがあるように私は見ているんですが、それともう一つは、やっぱりみずからの財源、町税とかそういうのもただかなきゃならない。それがだんだん人口減少することによって産業が衰

議
町

長
長

退する可能性が出てくるよということなんですよ。

そうすることによって、私は政策資源、財源が乏しくなるのではないかと、そういう心配も実はしているんですが、この辺のところは町長どのようにお考えでしょうか。

町長

今、山崎議員が言われるように、人口減少という、その結果によって、交付税は当然人口割という中では減少します。

今、現段階で、既にもう交付税というのは国の方針で向こう4年間の中で大きな減少を示しているわけであり、そういう中に昨年の交付税でも今年の交付税、そして、今年の交付税で極端に国が言うような減らされ方をしますと町政には大きな影響が出てきますから、それに対応するそれぞれ施策を持って交付税はなるべく減らさないように、こういうふうに進めておるのが行政であります。

そういう中で、いろいろ今産業も減少するであろうと。そのとおりです。私は基本的に考え方、この人口減少というのは防ぐ方法は今全国の中ではほとんどない。檜山管内の中でも厚沢部町が一番減少率が少ない。そして、次が今金町、あとの5町については、軒並み大きな減少になっているというのが現状であります。函館市に次ぐマイナスということですから、大きな減少をしているのが各町。そんな中、何とか今持ちこたえているが厚沢部町と今金町というふうに言われておるわけ。

そういう中で産業減になるだろうというのは、これは人的な言うなれば雇用人が減るとか何とかという減の方法と、資本的投資の減の方法、これ2通りあるかと思います。ただ、やはりこの人口減少をとめるのには、逆に言うと、単純に言って入ってくる人を増やさなきゃいけない。

議長
山崎議員

ふやすための手段としては企業誘致が一番の特効薬である、こういうふうに思っております。

この企業誘致、今経済が大変厳しい時代に入ってきましたから、企業誘致というのはなかなか面倒な時代になってきた。しかしながら、人口対策をするには、この企業誘致は否が応でもしなきゃならないというふうな考え方を持っております。

私どもは、今企業誘致の方法、あるいは都会のほうの大企業との連携の中で、どう引っ張り込むかというふうなことを今一番の重点事項にしておりまして、人口対策にもつながり、町の活性化にもつながり、経済的優位に立って企業をひっぱることによる大きなこれらが付加されると、こういうふうに思っております。

私どもは死亡する方々と生まれる方々の対比はできない。これからも死者の六十何人、70人に、子供が70人生まれるというふうな近々の中ではまず考えられない。じゃ、どうするかというと、そういう第2、第3の策を講じて人口を入れてくると、こういう方法がこれからの対策だと私は思っているところであります。

9番、山崎議員

1つ、私は人口減少することによって、やっぱり行政のコストというものを考えていかなきゃならないだろうというふうに思っています。実際に2点目の質問の中で、行政サービスということについても答弁で触れられておりました。

人口減少、特に行政サービスにも変化をしていくのかなという感じを実は持っている。そういうことは、行政サービスの変化が伴うということは、それだけ住民の負担を場合によってはお願いするということもあり得るわけですから、そうするとその辺の事情というものの十二分に町民に説明をして理解を求めなきゃならないと私は思っているんです。

議
町

長
長

そういうこと、人口減少のために行政サービスの変化ということについては、どのような連動というふうになるのか。財源があれば幾らでもやるんだけれども、行政もコストということも考えていった場合は、どうするかということをも自分、自分考えていかなきゃならない。だから、行政サービスということについて、これからはどのように指導するなり、方向性を定めていったらよろしいのでしょうか。その辺のところはどうお考えでしょうか。

町長

今、山崎議員が言われるように、行政サービスの低下という、こういうことが懸念されるというふうなことであります。当然、今、厚沢部町ばかりではない全国の中で、人口がどんどん減る行政体というものが従来どおりの行政サービスというのが到底できなくなり、何故ならば先ほどから言われるように財源的なものもある、対職員の、今人口が減るということは、人口に合わせた職員体制というものにしなきゃいけません。そういうことを考えるときには、当然住民サービスというものが単なるサービスだけで終わるのではなくて、どういう方法で住民が最も幸せに感ずる、そういうサービスというものは、どういうものかということをも具体的な中身まで全部、今やっている者が全て100ではありません。

当然改革するものはする、単なる補助を出せばいいものではなくて、今後は住民が住民みずからお金を出して物事を進める、こういうことが当然必然的にこれからの経営の中では生かされていかなきゃいけない、そういうふうに思っております。

単なる今こういうどんどん交付税も減る、税体制も弱くなるというふうになると一般財源というものはないわけですから、その際に職員の人数の減少、そして財源確保、こういうものが当然伴ってきますので、今山崎議員言われるように、今のまま住民サービスが行くというふうな考え

議
議
山 崎 議 員

長
長
員

方にはならない、こういうことを思っているところであります。

山崎議員、残り持ち時間20分となりました。

9番、山崎議員、どうぞ。

それから、人口減少に伴う大きな問題が今発生しています。それは、1つは生産年齢人口が減少をしていくということなんですよ。

ここにこういうような表がありますけれども、日本の少子高齢化はどのように進んでいくかというようにことなんです、必ず15歳から64歳の生産人口というのはどんどん減っていつているんですよ。そして、高齢化が若干ながら上向いている。そして、全体的には人口は減っていくという。問題は生産人口の減少なんです。それをどう補って、どう指導していくかということが大事になると思います。

つい最近、町長も出席していただきましたけれども、鶉の敬老会で御婦人方が大変心配しておりました。今生産人口の減少を女性と高齢者がカバーしているんですよ。私どもの身近には、80歳になっている現役の農家もまだ頑張ると言っていましたよ。昔は我々のときは、60歳になれば農業年金をもらって経営移譲しなさいと、そういう指導がありました。今は70歳、80歳になっても、現役で頑張りたいと言わないと町がもたないんですよ。私はそう思いますよ。

そこで、この生産年齢人口、今町長も言いましたように、例えばベトナムからそういう若いお嬢さんを連れてきて、その代替をしてもらおうとか、いろいろな方法もあると思います。ところがやっぱりその御婦人方の話の中では、我々みたいな鶉みたいなこんな小さなところへは、例えば1人のカンボジアとかベトナムの外国人を雇って、仕事してもらっただけのそういうものができな

<p>議 副 町 長</p>	<p>いという、条件づけできないんです。そうすれば、あと10年になったらどうでしょうかという、そういう心配物すごい今しているんです。これは厚沢部を見てみれば、厚沢部町もそうだと思うんですよ。</p> <p>町長、人口減少ということで、生産年齢人口が減っていくという、これをどう町長は解決して指導していくというようなお考えでしょうか。</p> <p>副町長</p> <p>確かにおっしゃるとおりなんですけれども、それは日本全体の問題でございます。ですから、安倍総理というのか政府は1億総活躍、幾つになっても頑張るって現役だと言ったり、女性の社会進出ということをやって叫んでいるわけでございます。</p> <p>それとあわせて、AIというんですか、技術革新による労働力不足を何とかAIとか何かで補っていかうということが、国の施策として新たな多分地方創生の目玉になるんじゃないかというふうに言われております。</p> <p>それと、町内だけの話をさせていただきますと、前回の国勢調査というのは、厚沢部町の人口というのは4,049人です。それは人口という。国勢調査では、もう一つ昼間人口という調査もやっております。昼間人口というのは昼間の間の人口ということでありまして、要は働きに来たりなんかしている人の人口でございます。それは厚沢部町のほうは4,135人ということで、80人ぐらい昼間の人口のほうが多いわけです。働く場があるというふうにも考えられるわけでございます。</p> <p>それと、うちの場合、高校の場合はもう全て外に出ていっておりますので、江差高校に行くと。そうすると、そういう部分も考慮をいたしますと、昼間の人口というのは130人くらい働</p>
----------------	--

議 長
山 崎 議 員

く場が多い町だということだと思います。

130人といたしまして、1世帯2人の人口だとすると260人、3人だとすると400人ほどということになります。そういう人たちが厚沢部町で暮らすような施策も必要なのかなというふうに思っております。

それらを進めるために、これまで水道、下水道、それと光ケーブル等いろいろ整備を図っております。しかし、これらは今では、もうどこもやっているという施策になりました。そこで新しい対策として魅力ある町の魅力づくりとして、子育て世代にとって、より魅力的な対策として、渡島半島では初めて公営塾を開設したところでございます。

そういう魅力づくりを渡島、檜山のトップランナーとして進めていくということが、生産人口確かにふえるというのはなかなか大変な話でございますが、減らさないような努力を続けていければ何とか少しは緩和できるのかなと思っている次第でございます。

9番、山崎議員

副町長、何か総理大臣の答弁みたいに立派過ぎて、ちょっと私反論できないんですけども、ただ、いずれはベトナム人でもカンボジアでも、ああいう外国の労働者を厚沢部町としても入れて助けてもらわないと厚沢部町の農業生産できませんよ。そのためにも、政策的にやるんだということをぜひ前向きに検討してほしいと思います。

それから、まだまだ時間あれば、今日1日でも本当にやらないと結論出ないと思いますけれども、ちょっと触れておきたいと思いますが、先ほど答弁の中になりましたが、人口減少下においても、将来とも持続可能な生活基盤や社会福祉サービスの提供を実現していかなきゃならないと。そのためには、一定の集約化を進める視点が大事であるということも答弁の中にあるんです

<p>議 町</p>	<p>よね。一定の集約はしなきゃならん。</p> <p>そこで私は提案したいんですが、小学校の統合についてはどのようにお考えでしょうか。これは2番目の質問に入るんですが、ちょっと前段、集約化ということに対して小学校はどのようにお考えでしょうか。</p> <p>町長</p> <p>統合、山崎議員も御承知のように、厚沢部町の統合というのは、今まで昔から現段階まで行政主導はありません。したがって、今、館、鶉小、現在ありますけれども、地域のほうの意向により統廃合をするというのが今まで厚沢部町の教育方針の中であります。</p> <p>したがって、行政が一方的に集約のために統合しますよという地域のほうにも説明はもちろんしませんし、あくまでも子供たち、そして父兄、そして地域の方々の意向によりそういう方向に進めたい。これが厚沢部町の原則であります。</p>
<p>議 山 崎 議員</p>	<p>9番、山崎議員</p> <p>町長も総理大臣みたいな答弁だね。</p> <p>原則はわかるんですよ。だから、私は行政のリードというのはないんですかと先ほどから申し上げているんですよ。今、時間ないもんですから、先にちょっと進めたいと思います。</p> <p>そういうことで、私はこの人口減少というのは厚沢部町全体の問題ですから、町長だけ頭悩ませて考えることでないですよ。みんなでやっぱり考えて、みんなで力を出していかなきゃならない。そして乗り切っていかなきゃならないと私は思っています。</p> <p>ところが最近、ある人からこんな問題投げかけられました。これはきっと多分、町長が提案したものだと思うんですが、厚沢部町世話好き世話焼き隊実施要項というものがあるんです。すば</p>

<p>議 副 町 長</p>	<p>らしい、こういう組織だと思います。</p> <p>昔は、よく世話好きのそういう先輩方がいて、おまえ嫁さんもらえとか、あんた子供どうだとか、いろいろなことで手を焼いてくれた人がいる。その世話好き世話焼き隊実施要項という、こういう立派なもの。そして、この中に隊員の登録証もちゃんと交付しているんですよ。その方も登録証持っている。けども一向に御指名かからないと言っているんですよ。どうなったんだべと。</p> <p>だから、今この人口減少問題、それから今話する小学校の問題、それから認定こども園の問題も、厚沢部町はこういうような気持ちを持った人がたくさんいて、子供たち見てやってサポートしていくという、そういうことをつくり上げていかないと私はできないと思いますよ、新しいまちづくりというのは。</p> <p>これ、町長の時の何ですか、これ。</p> <p>副町長</p> <p>私もそういえば何となくそういうのがあったと、そういう反省と、反省というよりも猛省しているわけですが、調べてみますと、私、福祉関係ちょっとやったことなかったんですけども、福祉関係で北海道がこういう運動を進めるという旗振りをしたということで、全道的に組織されたものだというふうなことだと聞いております。社会全体で子育てを支援するんだということでございます。</p> <p>朝少しインターネットで見ましたら、今金町と厚沢部町だけが活動休止中というふうになっておりまして、その他全道でも活動休止中ということがございました。</p> <p>活動しているところを見ますと、子供たちの見守り、読み聞かせ、お母さんたちの集う場、相</p>
----------------	--

議 長
山 崎 議 員

談する場、あとは学童の預かりと、そういう活動をしているようでございます。

厚沢部町でこういうことをしてないのかといいいますと、行政主体型でやっているということでございますので、これは登録証交付ということでもありますので、町民と一体となって協働でまちづくり、子育てをしていくということだと思えます。

福祉担当のほうにも今休止中ということでございますが、これからどう活動できるのか検討させたいと思っておりますし、新年度で新たに子ども・子育て支援計画というものを第2期になりますけれどもつくりましますので、その中にも取り入れながら、活動の再生というんですか、復活させていきたいなというふうに考えております。

山崎議員、残り時間あと10分となりました。お伝えしておきます。

はい、わかりました。

あと2問目に入ります。まだ1問目につきましては、大きな課題でありますので、これから町長、執行者、職員方とともに一緒に舞台上がって議論していきたいというふうに思っています。

それで2問目に入りたいと思います。

教育環境の再構築についてであります。子供の未来は厚沢部町の未来であると位置づけています。中学校が統合され、保育所が認定こども園として統合され4月に開園されます。子供たちには、認定こども園、小学校、中学校、公営塾とし、一貫した教育環境が望まれます。

平成31年の鶉小学校の入学生が1名であると聞かされ啞然としています。こども園で町内の子供が一つになっても、子供たちにとって小学校3カ所に分かれることが教育環境上マイナス要因になるというふうに考えられます。小学校の統合について、教育長の所見を伺います。

<p>議 長 教 育 長</p>	<p>教育長</p> <p>教育環境の再構築についての御質問であります。</p> <p>鶉小の次年度、平成31年度入学予定児童は、御指摘のとおり現在1名であります。年度ごとの児童・生徒予定数をもとに、平成30年度ゼロ歳児14名がこの先小学校入学予定である平成37年度推定児童数は、今年度対比で、厚沢部小学校が29名減の82名、鶉小学校は7名減の19名、館小学校では増減なしの29名となり、小学校全体で166名から130名に減少することが見込まれます。</p> <p>現在、厚沢部小学校は全学年単式学級、鶉小学校は複式学級3クラス、館小学校は単式2クラス、複式2クラスで行われております。複式学級の場合は、1学年当たり約半分の授業時間しか教師の直接指導を受けられません。しかし、児童数の少なさはきめ細かな指導を可能にし、教師が他学年を指導している間接指導の時間帯では自主的に学習する態度も育ちます。また、上級生は下級生に教え、下級生は上級生から学ぶことで社会性が身につくなど、単式学級にはない独特のメリットも確かにございます。しかし、我が国の少子高齢化は加速度的に進行しており、檜山管内においても児童・生徒数の減少に伴う学級減や閉校、統合等は管内自治体が直面する重要課題となっております。</p> <p>当町も平成28年度の美和小学校、平成29年度の鶉中学校、館中学校、厚沢部中学校の閉校を経て今に至っております。人口が減るということは、先ほど来ありますけれども、単純に町の収入も減り、子供たちへの未来投資額も当然減ることとなります。毎年100人余りの人口が減少している今、私たちはその現実から目をそらさず迅速に真正面から取り組まなければなりません。なぜなら、子供たちの才能や能力が開花するチャンスのタイミングというのは決して待つて</p>
----------------------	---

議 長
山 崎 議 員

はくれないと考えるからです。

子供たちの能力や可能性の開発、発展における機会は、その子の人生を左右するかけがえのないものであり、よりよい機会の提供は私たち大人の第一義的責任であると言っても過言ではありません。

この場では昨年6月、9月と申し上げておりますけれども、我が町の義務教育9年間にどういう教育環境を用意すべきなのかを義務教育学校等、小中一貫教育をもしっかりと視野に入れ、今こそ私たちは全力かつ迅速に協議検討する必要があると考えております。

以上です。

9番、山崎議員

先ほど町長は、小学校の統合について十二分に町民の意見を聞きながら慎重にやりたいというような、そういう発言をしました。

ここで、私どもは議会としまして1月25日の日に議会報告会をやりました。その中で、小学校の統合ということについても町民からの大きな声が聞かされました。小学校の統合については、子供の将来を考えると、生徒の数が多ければ多いほど互いに切磋琢磨し、学力の向上、スポーツの振興を図られる。時代の流れに逆行してすべきであると、そういう強い意見でもありました。

それと、あるところでは、こども園が何年か一緒になっておつき合いをして勉強させてもらっているのに、それが小学校でまだ3カ所に別れるようなことになるんだ。余りにも子供がかわいそう過ぎる、そういう声がありました。

私どもの町内会からは、29年度の要望事項としまして、小学校の統合について要望しました

が、子供はとにかく一つになってほしいということでありまして、いろいろな地域の人方については、学校がなくなれば地域が寂しくなるとか、子供の声が聞こえなくなるとか、いろいろな話あります。しかし、私は子供の能力をいかにして高めていくかということとは、先ほどの町民の声にもありましたように、余りにも人数少な過ぎると、これはちょっと弊害があるのかなど、そんな気がしております。ですから、大人の都合だけで考えるのではなくて、子供の能力開発のことを第一に考えて小学校の統合ということを考えてほしいという、それが我々の町内会から出た要望でもありました。

しかし、まだその回答につきましては、先ほど町長がおっしゃったようなことであります。これから徐々に徐々にそういういろいろな声を聞きながら、できれば私自身も、先ほど教育長が言いましたように、小中一貫校教育というものを私は考えているんです。

なぜならば、もうこの31年から36年までの3地区の小学校の入学児童数も調べてみましたけれども、31年は厚沢部では19人、鶉では1人、館は5人、計25名ですよ。厚沢部町1年生、ずっと二十四、五名なんですよ。

そして、36年では全校で13名ですよ。その中では36年度は厚沢部小学校13、鶉小が3、館は1ですよ。こういうような状況の中で、私は小学校も統合して小中一貫というような形で、そして、それにあわせて公営塾もあるわけですから、いろいろな形で子供さんの力をつけてあげたいなというふうに思っております。

それを大人の事情で何だかんだという、そういう議論ではなくて、ぜひ子供を第一に考えて、そのことを強く進めてほしいと思いますが、教育長はいかがでしょう。

議

長

教育長

<p>教 育 長</p>	<p>先ほど先に町長のほうに質問された件でございますけれども、町長の言わんとしていることは、町民から湧き上がってきたものに対して、いかに行政が迅速に応えるかということは、その声をいち早くつかまえて一緒に考えていくという姿勢もまた含まれているというふうに自分は捉えております。</p> <p>ですから、あくまでもゼロの地点からの行政主導ということではなく、一緒になって町の将来を、議員がおっしゃるとおり、子供たちにとって最もいい教育環境は、そして今まさに子供を育てている保護者世帯が最も望む教育環境というのは何なのかをともに考えながら、しかし、先ほど来申し上げましたように、子供たちのチャンスのときというのは本当に待つてはくれません。</p> <p>ちょっと例になりますけれども、サッカーでよく9歳児から約12歳児ぐらいまでをゴールデンエイジとして指導していきませんが、実はなぜそういうかということ、9歳児、今は下がっていると言われて、もう6歳児ぐらいまで下がっているという人もいますけれども、高校生年代になって数カ月かかるかもしれない技術の習得がその年代だとわずか1日で済む、そういうデータもあるんです。</p> <p>つまりは、この年代の子供たちにどれだけのチャンス、刺激を与え、能力が開花する機会を与えられるか。それは1度、2度ならず、たくさんのお機会を多角的に与えられるかは、先ほど来申し上げました私たちの責任であると考えております。ですから、これから議員、また御指摘のとおり、皆様の声をすくい上げながら、できるだけ早くよりよい教育環境の実現に向けて私も努力してまいりたいと考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>9番、山崎議員</p>
<p>議 長</p>	

<p>議 山 崎 議 員</p>	<p>時間が過ぎています。次が最後の質問となります。</p> <p>これで最後にしたいと思いますが、今ちょっと教育環境も実は関連するんです。ということは、先ほど私ちょっと発言するに再確認するのはちょっと忘れただけけれども、限界集落なんです。私も地元で町内会長をやっていますけれども、今まさに限界集落なんです。</p> <p>町長、この限界集落の末路をどういうふうに考えていますか。もう集落が消えていくんだもんね、これ。</p>
<p>議 山 崎 議 員</p>	<p>山崎議員、直接今回の問題と関係ない質問だと。</p> <p>いや、さっきの人口減少問題にあった何番目かの問題なんですけれども。</p> <p>じゃ、今回のこれはいいです。けども、集落がなくなったら、子供もくそもないわけだから大変な問題だ。それ、俺、町長のことをちょっと聞きたいんですよ。最後になります。どうですか、それ。</p>
<p>議 町 長</p>	<p>じゃ、町長お願いします。</p> <p>まず、先ほどから山崎議員が話しているように、そのような住民の方々の考え方であれば、私はいつでもゴーサインは出すんです。議員報告会の中身を読んでも、反対の人2人か3人答えを出していました。こういう中で、地域の方でない方が反対、保護者でない方が反対。これは保護者は皆さん賛成だと思うんですよ。私は今山崎議員の考えている、それは当然そういうふうに我々もそういう方向に行ってほしいなと思っている。時間ないですから余り詳しいことはやめます。</p> <p>それと、限界集落。限界集落は、これは総務省で言っている言葉と。先般、東京都での全国の市町村長大会があったときの東京大学の教授のお話の中では、限界集落というものは、これはど</p>

こでつくったものだ。各集落に1人でも残ればこれは限界集落じゃないと、こういう発言を東大の先生がしておりました。そういう中で1人でも残って、みずからその集落で頑張ろうと、いろいろ生活をしようという考え方であれば、その集落が限界集落ではない、こういうその説明をしていました。

なるほどなと思いつつも、集落の機能というものを考えるときに、やはり1人ではどうしようもないだろうなと思いつつ、今我が町にどのくらいの限界集落想定される集落があるかと。8つ。そういうくらい、今総務省のいう人口基準からいったら該当する集落が8つもあるという、こういうことであります。

それが、じゃ、限界集落として消えてなくなるという話なのか、これからもその中で2人、3人が生活するということになるのか。これは私は1人、2人いるうちは町民として最善の行政協力、支援をしていく、こういう考え方でおりますので、限界集落にはさらさら私は強い抵抗は持っておりません。

9番、山崎議員

おまけで1つお願いします。

私、町長、限界集落というのは、その末路というのは私自身も体験しているんですけども、まずその地域の住民の交流がまずなくなります。それと助け合いとか、そういうのもなくなります。それから、かたいきずなどか、そういうのももうなくなるんですよ。これが私は限界集落の末路だと思っていますよ。そうすると地域の公的な事業も何もできなくなりますよ。

だから、それに対しては、町長、何とか行政の形で助けていただくなり、強い行政指導をお願いしたいというふうに思います。

議長
山崎議員

<p>議 議 議 議 佐々木議員</p>	<p>時間大幅にオーバーして申しわけありません。終わります。</p> <p>それでは、次に、10番、佐々木宏議員</p> <p>10番、佐々木議員、持ち時間はただいまより12時40分までです。</p> <p>佐々木議員の一般質問終了後、昼食といたします。</p> <p>10番、佐々木議員、どうぞ。</p> <p>平成も押し迫ってきて時間がなくなったのか、一般質問も休憩なしでの続行でございます。そういう部分でございますけれども、議長より3月定例会許可をいただき、一般質問させていただくことに感謝し、また本当に幸せだなと思って感じているところでございます。</p> <p>それでは、入らせていただきます。</p> <p>地域住民の足をどう確保するのかという質問事項でございます。</p> <p>人口減少、少子高齢化の進展は、地域公共交通に大きく影響を与えています。高齢者の運転免許返納など地域住民の交通手段の確保が必要となっている中、過疎地にある再生可能エネルギーを使って住民の足となる電気自動車、EVの運行サービスを始めるとの新聞報道がありました。高齢化等が進む町の周辺部における地域住民の足の確保は大切であると考えているものです。新たな公共交通網の整備について町長の見解を伺うものです。</p>
<p>議 町</p>	<p>町長</p> <p>佐々木議員からの地域住民の足をどう確保するのかというふうな質問であります。</p> <p>佐々木議員からの質問のとおり、人口減少、少子高齢化の中では、住民の交通手段の確保は住みなれた地域で安心して暮らすための大きな1つのファクターであるというふうに思います。</p> <p>厚沢部町におきましては、その課題に対応すべく、以前から生活維持路線バスの運行に対する</p>

補助、高齢者の輸送サービスを既に実施しております。また、各小学校、中学校のスクールバス運行に加え、31年度からは認定こども園の開園時におきます送迎も今進める計画であります。

しかしながら、その経費負担を考えたときに、現状のサービスが将来にわたって提供可能かどうかと常に財政状況を考慮しながら施策は展開してくと、こういう必要があるわけでありまして。さらに、中長期的な視点で将来像を捉えた場合には、これらサービスを担う人材不足も懸念されますし、AIやIoTなどの最新の技術の導入も必要となってまいります。

先般、北海道新聞に報道がされましたIT企業などが推進協議会を立ち上げて、地域の再生可能エネルギーを使った電気自動車の運行実証実験を厚沢部町で行うとの報道がありました。推進協議会への参画は求められておりませんが、実証実験の際、必要となる会議の場所、あるいは宿泊、こういうものについての厚沢部町での依頼を受けております。

現時点で実証実験の段階でありますけれども、その費用や利便性、サービスの持続性、必要性、こういう資源など不透明な部分がほとんどでありますけれども、将来には自治体向けのサービス提供を目指すものというふうに聞いております。町としても実証実験の推移を見守りながら実験の結果が地域の足を確保するに資するサービスとなり得るのかどうか、こういうものに注視をしてまいりたい。

地域住民の足の確保は今後ますます大切となっていくことは、佐々木議員と同じ考え方でありまして、急速に情報、技術は進歩しております。今我々には想像し得ない交通体系や社会インフラが整備される可能性も十分あると考えます。時代におくれることなく地域住民の足の確保を図ってまいりたい、このように思っております。

議

長

10番、佐々木議員

<p>佐々木議員</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>私、このたびの質問通告に際しましては、CO₂の削減、低炭素化につながる再生エネルギーを使ったEVの運行実証実験の詳細というようなことで、事細かく8項目にわたって質問通告したわけですが、その後1週間新聞報道から経過した中で、より具体的に見えてきたような事柄がありましたらお話ししていただければというふうに思います。</p>
<p>議 長 町 長</p>	<p>町長</p> <p>佐々木議員のインフラ実証実験、このことは、既に今回北海道新聞に出ましたけれども、それ以前に函館市の未来大学が同じ調査をしております。これはモビリティのサービス事業は、これから日本で北海道、そして今度道南でどうあるべきかというふうな、この未来大学がもう既に昨年動いております。この際に道南の各町村を回って、この意見統制をしながら、今方向を出す、そういう協議会を未来大学もつくりたいと、こういうふうな動きになっております。</p> <p>また、今、今回来ましたエンセクサマリーとか、何か口の回らないような会社でありますけれども、これを見ますと、もうかなりのライン、厚沢部町にあわせた中身をいろいろ調べながら来ているようでありまして、これらを見ますと、行政、公共、自治体、再生エネルギーの会社、EVスタンド、それから運営管理、こういうものを全部一体としてこういうものを厚沢部町の全体の交通体験を考えたいと、こういうふうな、この中身を見ると先頭に内閣官房が入っております。</p> <p>内閣官房、中小企業基準整備機構、北海道経済産業局、ダイワハウス工業、北海道ガス株式会社、こんな大きな会社がずらっと十何社か連ねて、いろいろこの問題を積極的に検討している模様であります。</p>

<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>これらの中身につきまして、もっと具体性を持って説明をしたいということで、14日の日にこの会社のメンバーが厚沢部町へおいでになると。その後でなければ、具体的な説明は佐々木さんにも答えることができませんので、今の段階では北海道新聞で読んだ記事で我慢していただくと、そんなふうに思っております。</p> <p>10番、佐々木議員</p> <p>はい、了解しました。</p> <p>答弁の中で最新技術導入というような答えがありました。その中でAIとIOTといった部分について、漠然と理解はできるんですけども、もうちょっと細やかな説明という部分もお願いしたいというふうに思います。</p>
<p>議 長 町長</p>	<p>町長</p> <p>今申し上げたように、これ以上の細かい内容については、まだ具体的な内容は聞いておりません。</p> <p>今向こうからの提案しているこういうふうな冊子がありますけれども、この中でも全道、全国で今初めてやろうという事業なものですから、これの中身の検討、メンバーの中でどういうふうにこの委員会の中で進めようとしているのか、これはちょっとまだ具体的な内容は聞いておりませんので、14日にこのメンバーが説明に来るそうでありますから、それによって十分具体的な内容に入っていけるんだらうと、こういうふうに思っておりますし、また、未来大学のほうでのこのような今調査段階になっていきますから、これも今結果が出次第、厚沢部町のほうに説明に来ると、こういうことをございますから、両方似たような中身でありますから、それらを捉えて今度の機会にでも説明できればと、こういうふうに思っております。</p>

<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>10番、佐々木議員</p> <p>どうも専門用語を答弁していながら、詳しく説明できないと納得できない部分もあるんですけども、それはそれとして、地域住民の足の確保といった観点でお話しさせていただきます。</p> <p>今年度、31年においては、こども園開園に伴って通園バス、そしてまた、昨年から各小・中学校スクールバスが運行されております。そしてまた以前から高齢者に対する移送、そして外出支援サービスといった部分が行われております。そしてまた、昭和30年代から函バスというように生活維持路線バスが運行されております。</p> <p>そういった中で厚沢部町全体を見回してみますと、高校生等の送迎といった部分の対策が不足というか、そういう事態になっているんじゃないかというふうに私思うところであります。江差高校移転前、豊川町の時代は、それぞれ高校生においても通学バスを利用してほとんどの方が通学されていた状況にあると思いますけれども、現在ですと、ほとんどが父母の送迎というように、この時間的、経済的、父兄のロスというのはすごい大きい部分であるなというふうに思います。</p> <p>そういった中で行政といいますか担当する部分で、厚沢部町としては、そういった函バスとかいったそういった部分を含め、年々バスの利用者が少なくなっている中で、こういった対策というかを行ってきたのかと、その点についてお願いいたします。</p>
<p>議 長 町 長</p>	<p>町長</p> <p>今学生バスの関係がお話出ました。今からたしか7年か8年前だったと記憶していますけれども、これは高校生の足、これはバスを活用ということで、町にバス定期の支援をお願いしたいというふうな要請がPTAから上がったことがあります。このときに、それぞれお集まりいただき</p>

て議論したときに、じゃ、函館市、札幌市に行っているのはどうするんだと、こういうふうなお話が出て、その際には議論が頓挫してしまったという経緯があります。

これは、ただバスだけというだけなら考えられるわけですがけれども、そういうふうに厚沢部町の子供たちは半分は函館市へ出ておる。下宿なり何なり金出せということかいという、当時はかなりけんけんごうごうとやった経緯があります。

そんなことで、バスは町は今でも1,000万円以上の函バスに金を出して、学生の通学の時間帯に合わせて稲見、館、この2本は維持しているわけですから、これが実際の話はほとんど空っぽである、こういうのが実態であります。その江差高校へ通学している子供たちは、バスに乗るくらいなら自転車で行くと。こういうふうな夏から秋は自転車で行って、好きな時間に好きな行動をしたいというふうな話が出まして、これはもう1人、2人に支援という話ではないということで、そういうことから、このバスというのは、佐々木議員も御承知のように、今、厚沢部町の予算等でも見るように、1,170万円、平成31年度も函バスに納めている。

トータルで1,174万円の経費を使っているわけですから、そういうふうな状況の中で、これが国の支援がなくなるということでもありますと大変な事態になる。そういう中で学生は、じゃ、今と同様に家族の送迎をしてもらうのかどうかと、こういう問題が当然起きてくると思います。

しかしながら、今の高校生はほとんどがバスに乗っていないというのが現状でありますので、今後のそういうバスが差しどめになるとかいろいろな状況になる場合に、学生の親とも十分協議をしながら方策を考えていきたい、こういうふうに思っています。

議

長

10番、佐々木議員

<p>佐々木議員</p>	<p>以前の議会答弁の中では、稲見、富里の部分と理解していいのか。そういった部分については、国の財政支援がなければ考えなければならないというような答弁もあったわけですが、私は決して交通インフラの尺度として重要だと考えていて廃止というようなことは言いません。</p> <p>ある体系を使った中で、少なくとも今現在でも半分以上が函館市に行ったとしても、3学年考えると50名に及ぶ子供さん方がいるわけですから、それを夏場は自転車で全部50人行くかと、そういうふうなことになっていないと思うんです。</p> <p>それが父兄が朝晩送迎している、そういった部分もきちっと目を向けていかなければならないということで、何か庁舎というか役場内ではそういった部分、いろいろ1回ぐらい論議したということがあるんですけども、そういった部分の論議がなかったということはもう残念だなというふうに感じているわけですが、そこで、以前も、ある議員が通学助成と、せつかくの公共的なバスがあるわけですから、それに支援した中で利用度を高めるといったような、そういった論議というか、検討というか、そういうことはなかったんですか。</p> <p>あわせて、これは通告なくて申しわけないんですけども、函館市含め結構本数があります。乗車率、1カ月の人員的なそういった人数的な部分はわかりますか。</p>
<p>議 長 総務政策課長 議 長 議 長 副 町 長</p>	<p>総務政策課長</p> <p>すみません、今手元に資料がないので、後でお示ししたいと思います。</p> <p>あと高校に通っている支援の話し合いを持ったことがあるか、ないか。</p> <p>副町長</p> <p>バスの支援であります、先ほど町長答弁したように、何年か前に一度論議があったのかな</p>

と。私はちょっと担当でないのでわかりませんが、そのとき以来は特にございません。

それと、次世代型交通サービス導入検討ということで、町内でも平成21年と22年に函バスなくなった時点でのどういう運行が一番利用者が高くなるのか、運行可能なのかという調査をしております。そのときであれば、平成20年の実績であれば、1日11人の乗車ということでございます。

函館から厚沢部町通って函館市行くバスじゃなくて、町内だけを走っている、江差と町内を走っているバスの乗車が1日11人ということでございまして、なかなか採算ベースに合うということ、1人100人以上の乗車が必要だということの結果になっていたというふうに記憶しております。

そういうことで、確かにそれぞれ親御さんの負担というのもわかるんですけども、小学校、中学校一緒にPTA活動もやってきているわけですから、その辺は親御さんたちの協力等でカバーし合えないのかなど、個々にそれぞれ送迎するよりも、そういう協力し合った中での送迎も可能なのではないかなというふうに思います。

10番、佐々木議員

何とも残念ですけども、利用率が少ないというのは、本当に大変だなというふうに思っているところですけども、高校1つ捉えてみても、先ほど限界集落の話も出ましたけれども、進学というか、そういう高校生がいる家庭については、郡部といいますか、町から離れたところにはなかなか住むのが農家以外は面倒になってくるというか、利便性を求めて中心都市に集まってきているというのが実態だと思います。そういった部分で住宅選考委員会1つ捉えてみても、なかなか既存の町営住宅には入っていないという状況も出てくるかと思えます。

議長
佐々木議員

<p>議 副 町 長</p>	<p>そういった中で答弁にもあったんですけども、財政状況を考慮しながらも、本町の实情に合った交通網の整備のあり方を進めたいということをおっしゃっています。</p> <p>従来は函バスの助成と高齢者の部分であったんですよ。ところが去年から小・中学校のスクールバス全面的になりましたよね。要するに、全面的に。そして、こども園が入ってくるということになると、財政的な部分の負担が、私ざっと見積もった段階で2.5倍ぐらいの負担仕様になってきているという実態があります。</p> <p>そういった中で、既存の函バス、木間内とか時間帯見てみると通学できる体系も組めるのかなという部分もあります。そしてまた、そういった部分も1つ捉えてもそうなんですけれども、中学校の部分、そしてまた高校の部分もいろいろこれはありますけれども、そういった中で、具体的に庁舎内で平成21年、22年、バスがなくなった段階での検討委員会というのもあったと思うんですけども、その後の検討委員会というか、そういったことはないんですか、庁舎内に。</p> <p>副町長</p> <p>先ほど言った検討会というのは、庁舎というよりも、一般の方も含めて交通事業者も含めて、町内会も含めての会議だったという、そういう結論だったと思います。</p> <p>それと、考えてみますと、今の交通体系、特に福祉関係の外出サービスというのは、病院の時間帯なり買い物時間帯なりに合わせて、それぞれタクシーみたいな使い方になっているわけでございまして、それも低料金でやっております。</p> <p>ですから、それに勝る交通体系をつくるとなるとちょっとないのかなという、ある程度それに財政的に問題になったときに、じゃ、それにまさる体系というのはあるのかどうかというのは、非常に難しい問題だなというふうに思っております。</p>
----------------	---

<p>議 長 佐々木 議員</p>	<p>そこで、一番最後のほうに答えておりました、我々には今考えられないような交通手段なり何なりができてきたらあるかもしれませんけれども、現段階で考えますと、今の社会福祉協議会でやっている外出支援サービス等にまさるものはないのかなというふうに思っております。</p> <p>10番、佐々木議員</p> <p>こども園と高齢者移送、そういった部分は、これは中学生とか、そういう部分と組み合わせるとするのは無理だと思うんですけども、元気な小・中学生運行バス、生活維持路線といった部分では、やり方次第ではできるんじゃないかなというふうに思いますよ。</p> <p>そういった部分で、職員においても若い平成の時代の若手の職員が中心となって、各課関係なく横断的にどういうことができるんだというような本当に厚沢部町の公共交通のあり方を協議する場をつくる。そして、企画提案して実行に移すということをやっていないと、人は減るわ、税収は少なくなるわ、サービスはばんばんふえていくわ、財政的な部分でもうもたない状況、そういう懸念もあるわけですけども、そういった部分ではどうですか。</p> <p>そういう取り組みを進めるということは、これは大きい厚沢部町の課題でないかなというふうに思うんですけども、その点はいかがでしょうか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>先ほど山崎さんの質問ともかぶるような感じもございしますが、2040年後には人口も2,000人台になるということでございます。我々もその2,000人台になった町の形というのは、よくはっきり見えてないということもございます。</p> <p>今は減らすスピードを何とか抑えようという努力はしておりますが、現実問題として確実に減っていくのは必然というか必至でございますので、道内にも今2,000人台のまちというのも</p>

	<p>ございますし、例えば生活圏、厚沢部町であれば、中核都市というのは本当は江差町なんですけれども、買い物、病院等を考えますと函館市くらい、車で1時間くらいで2,000人くらいの町というのがございますので、若手職員にそのまちの形等を勉強してもらって、危機感等、新しいまちづくりの形を学んで研修させていきたいなというふうに考えております。</p> <p>それと限界集落だとか何かというお話がございましたが、財政的に大変になってくるので集約化を進めると。集約化を進めるといふのと限界集落を守るといふのは相反する命題なわけでございます、その辺をどううまく調整していくのかというのが我々の今後の課題なのかなというふうに思っております。</p>
<p>議 長 佐々木 議員</p>	<p>10番、佐々木議員</p> <p>私はコンパクトシティを進めてということではなくして、現状のある集落を維持しながら進めていただきたいという、そしてまた、ある交通体系もそのまま維持しながら、いかに効率のいい、そういったサービスできるかということ、1つには若手の職員にそういった構想をしていただきたいという課題が1つです。</p> <p>次に、今金町、せたな町では、地域の交通確保のための協議会が立ち上がっております。厚沢部町はそういった点で、以前何かそういう平成21、22あったということなんですけれども、継続的な部分ではなっているんでしょうか。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>その辺は、その場の結論としまして、やってみますと。その検討会で想定したのは、今の町単独で支援しているバスが全てなくなる。そこで、通学と病院、それと買い物の2つを考慮して都合のいい時間帯なり料金を検討したわけでございますが、やってみますと、今の函バスの走って</p>

<p>議 長 佐々木議員</p>	<p>いる時間帯というのが割と効率的というのか的確な時間だったということで、ほとんど変わらない運行をする必要があったということでございますので、先ほど言ったとおり、1日100人以上乗らないとペイできないというような結論で終わって、その後、検討会等もやっておりません。</p> <p>今金町さんのほうは協議会確かにできているということでございますが、あそこは幹線道路に函バスが走っておりまして、その先、厚沢部町でいいますと、函館市行きの幹線が走っていて、館方面、例えば稲見方面のバスがないということで、それをつなげるデマンドバスを走らせるための協議会というふうなことだったと思います。</p> <p>そこでうちのほうは、それなりに今維持されて、毎年1,000万円、国の支援100パーセントをもらいながら支払っているわけでございますので、その辺の協議会の立ち上げというのは考えておりませんでした。</p> <p>10番、佐々木議員</p> <p>本当にすばらしい交通体系になってきております。ただ、高校生の送迎が見渡すと手薄だなというふうに感じるところです。</p> <p>そういった中で既存の財政負担100パーセントといいますけれども、ある交通体系を利用した中で進めていくという部分については、くどいようですけれども、若手職員で町の将来というか、あすの交通体系をきちっと企画提案していただくというのが1つと、今金町、せたな町、どういった協議会になるかわかりませんが、横断的、複合的にそういった今あるこども園から高齢者送迎、ここはちょっと小・中学校スクールバスと生活維持路線とか、どういった組み合わせができるのかといったようなことも含めて協議会も立ち上げた中で、足の確保といった観</p>
----------------------	--

		<p>点で取り組みを進めていくのが大事であるなど改めて思っています。</p> <p>あわせて、また北斗新幹線もすぐ近くにあります。そういったことで、町長頑張って、中山線も改良してアクセス的に近くなっています。そういった、またまちづくりに向けたいいアイデアも生まれてくるんでないかなということを期待して、私の質問は終わります。新しい町長になったら、ぜひとも全力で取り組んでいただきたいというような願いも込めまして質問終わります。</p>
議	長	それでは、一般質問の通告は以上であります。これをもって終結をします。
議	長	休憩をして、昼食といたします。午後は13時10分から再開いたします。(12:10)
議	長	午前中に引き続き会議を開きます。(13:10)
議	長	議事を続行いたします。
議	長	日程第6 議案第8号平成30年度厚沢部町一般会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	税務財政課長
議	長	それでは、議案第8号の平成30年度厚沢部町一般会計補正予算(第6号)の内容について説明いたします。(議案内容説明省略)
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	最初に、歳入全般について質疑ありませんか。ページ数は10ページから36ページまでです。
議	長	1番、中山議員
中	山	議員
		ページ数でいきますと、まず1点目のつきましては18ページになるんですけれども、ここで農地の耕作条件改善事業費受益者負担金が286万2,000円の減となっていますので、この

<p>議 長 中山 議員 議 長 農林商工課主幹</p>	<p>内容について説明していただきたいと思います。</p> <p>2点目につきましては、26ページになるんですけれども、これは農地のほうなんですけれども、荒廃農地の利活用促進交付金、これは支出のほうにもあるんですけれども109万5,000円、これについての事業内容を説明していただきたいと思います。</p> <p>もう一点は、ちょっと前のほうになる——その2点で、それじゃ説明していただきたいと思います。</p> <p>2点でよろしいですか。もう1点いいですか。3回しか質問ありませんので。</p> <p>もう1点は23ページになりますけれども、ここで大変大きな地方創生推進交付金が1,200万円が減額されているわけですので、この減額理由を説明していただきたいと思います。</p> <p>農林商工課主幹</p> <p>まず、議案18ページの農地耕作条件改善事業受益者負担金の減についてでございますが、こちらの事業につきましては暗渠排水の整備事業でございます。6月補正予算で計上した5.5ヘクタール、その事業量というのは変わっておりません。ただ、当初予算計上していた額というのは、あくまで概算の必要額を計上していたものでありまして、その後設計委託等を含めまして、その後入札もありまして減額となった分が事業費が減となっております。</p> <p>例えば耕作条件改善事業というのは、財源としては国費と受益者負担金だけで構成されておりました。入札によって総事業費が落ちても受益者負担金だけが落ちるといったようなこととなりますので、入札の減分が全て受益者負担金の減につながっているような形になっております。</p> <p>次に、26ページですね。</p> <p>荒廃農地の事業なんですけれども、こちらのほうも当初予算では4件予定しておりました。荒</p>
---	--

<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>廃農地の復旧事業なんですけれども、ただ、そのうち、昨年まで2年間実施していた3年目の地区に関しまして、不陸形成、要するに平らにする作業を予定していたんですが、外注になりますので事業費等が思ったより高額になったので、今年度につきましては取り下げたいという旨を連絡いただきました。そして、北海道のほうにも相談したところ、取り下げというものが可能ですので、もちろん歳出の事業費は使わなくなって、歳入についても道のほうに取り下げしておりますので減ということになっております。</p> <p>以上です。</p> <p>総務政策課長</p> <p>23ページの地方創生推進交付金でございますけれども、これにつきましては、歳出のほうに出てまいりますけれども、田子町と、それから厚沢部町食と観光推進協議会の補助金の中で見ております、大きいのが東京都の汐留に出しております共同アンテナショップ、この運営費が減額したことによる交付金の減が主な内容でございます。</p> <p>内訳といたしまして、アンテナショップにつきましては、4月から昨年の11月末日をもって汐留のアンテナショップを閉店させていただいております。以降、12月から築地の場外市場になりますけれども、築地魚河岸というところで物販のほうを継続で続けております。これらを含めまして全体事業費が下がることによって、交付金のほうも下がっているという内容でございます。</p>
<p>議 長 中山議員</p>	<p>1番、中山議員</p> <p>1点目の暗渠のこの金額なんですけれども、工事の量的にいったら、農家は部分的に少なくはならなかったというふうにとっていいんですか。農家の負担はそのままやれたと。ですけれど</p>

	<p>も、この負担金についてはふえてしまったということで、今年もまた、毎年我々もそうなんですけれども、31年度につきましても、やはりこの事業というのは継続事業になるのかどうか。</p> <p>それと荒廃地ですね。大変これは大事な、我々農家にとっては荒廃地をよくするというのはいい事業なんで、これが何か返上したというのは、どうしてそういうふうになってしまったのか。</p> <p>それと、今年もまた継続していくのかどうかということをもう一回説明していただきたいと思います。</p> <p>それと、今総務課長のほうから、23ページにつきましては、私も田子町のほうのさっき支出のほうで見ていたんですけれども、これの絡みで、そうしたら今度は築地のほうに移転して、うちのアンテナショップとしてはそっちのほうでやっているんだというふうに捉えていいんですか。</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長</p> <p>それでは、先に地方創生のほうでございますけれども、推進交付金の性質というんですか、性格というんですか、アンテナショップを汐留のほう11月で閉めた後、この交付金の要件であります年間を通してということで、田子町も別のところでは物販のほうを進めているんですけれども、事業上12月から3月までは築地のほうで開くということで交付金の対象としているところでございます。</p>
<p>議 長 農林商工課主幹</p>	<p>農林商工課主幹</p> <p>まず、農地耕作改善事業についてでございますが、こちらの事業は、平成30年度から平成32年度、3年間ということで国のほうの事業採択を受けております。この中で30年度の事業配分というのが面積で5.5ヘクタール、もともと5.5ヘクタールで採択されておりました、</p>

その事業量は本年度予算で全て消化しております。

また、受益者負担につきましては、ちょっと先ほどの説明がわかりづらかったと思うんですが、総事業費入札によって減になったことによって、国費は一定ですので受益者の負担だけが減になりました。当初ちょっと何割かわからないですけども、当初、国費が6割、受益者が4割程度だったかなと思うんですけども、最終的には国費が8割、受益者が2割程度まで軽減できているというような結果になっております。

また、この事業につきましては、先ほど申し上げましたとおり、平成31年度は当初予算計上しております、平成32年度も事業採択されていますので、その中の計画としてやっていくこととなります。

次に、荒廃農地の利活用の交付金なんですけれども、こちらのほうは、先ほども答弁しましたとおり、あくまで受益者の方がやろうと思っていたんですけども、実際の見積もり額を見たら2分の1補助にもならないような見積もり額になってきてしましまして、ちょっとこれだと負担が大き過ぎて事業ができないということで取り下げとなった経過でございます。

また、この荒廃農地の事業なんですけれども、中山議員がおっしゃるとおり、農政担当としては非常に大事な事業、農地を荒らさないため、また復旧させるための大事な事業とは考えているんですが、平成31年度の国の概算決定では、この事業は廃止となっております。

じゃ、今後どうしていくかという形になるんですが、今採択を受けています農地耕作改善事業、こちらのほうなんかも使って農地の復旧もできる可能性がありますので、他の事業を検討しながら対応してまいりたいと考えております。

以上です。

<p>議 長 中山 議員</p>	<p>1 番、中山議員 総務課長、ちょっとまとめて聞きたいんですけれども、これでうちのアンテナショップでの東京都での事業というのは今年で閉めるというふうに捉えていいのか、それとも、また来年度、31年度から新たにアンテナショップを展開していくというようなことになるのか。それで、今までやった経過として、評価として、町のほうではどの程度の評価をしているのか。また、今後こういうような計画をしていく気があるのかどうか。それらについて、もう一回説明していただきたいと思います。</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長 このアンテナショップにつきましては、これまで全商連の補助金をもらいながら、今回は地方創生の2分の1の事業で運営してきたところでございます。 先に田子町さんが出ていかれたという経緯ありますけれども、田子町さんにつきましては、なかなか投資の分以上に収益が上がらなかったと。厚沢部町のアンテナショップにつきましても、かけている以上に売り上げがあればよかったんでしょうけれども、いかなかったと。 ただ、厚沢部町のPR、宣伝の効果としてはそれなりに、例えばそのついででテレビ放映も何回かされたとか、その辺で厚沢部町のPRはできたのかなというふうに捉えてございます。 また、来年度以降につきましては、今の段階で白紙と、今年度いっぱいということで今のところ考えてございます。</p>
<p>議 長 高 田 議員</p>	<p>3 番、高田議員 ページは23ページのプレミアムつき商品券事業の事務費補助金とあります。繰越明許になるんで新年度の事業でやるための予算だと思うんですけれども、ということは、逆にどんな内容の</p>

<p>議 長 保 健 福 祉 課 長</p>	<p>ものなのかというのが姿見えていると思うんで、それを教えていただきたいと思います。</p> <p>それから、25ページの総務費の道補助金のところの地域づくり総合交付金、厚沢部町の魅力発信事業なんですけれども、これは具体的に何に使うかというのをお願いいたします。</p> <p>それからもう一つ、ふるさと寄附金ですね。31ページ。</p> <p>補正が1,000万円ついております。以前にも1回聞いたんですけれども、今回どのくらいの寄附があって、最終的にこれでおさまるんだと思うんですけれども、具体的な内容を御説明ください。</p> <p>保健福祉課長</p> <p>まず、プレミアム商品券の関係についてですがこのプレミアム商品券事業の内容については、これにつきましては、消費税が10パーセントへ引き上げられたときの低所得者、子育て世帯、この方々の消費に与える影響を緩和するということで事業を予定しているということで、これにつきましてはプレミアムつき商品券の販売、これが額面2万5,000円のを販売額2万円で販売すると。</p> <p>それでこれの購入対象者なんですけど、今の段階では2019年度の住民税非課税世帯、非課税者、非課税の方1人につき、この額と。それから3歳未満の子が属する世帯の世帯主ですので、6月1日を基準日で想定しておりまして、3歳未満の子の数掛ける先ほど言いました2万5,000円分の額面を販売するというので、これにつきましては、この方々があくまでも購入して、そういうふうに例えば2万5,000円のうち5,000円がプレミアム分だよと、そういうような対象になる事業だそうです。</p> <p>以上です。</p>
----------------------------	--

<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長 25ページの地域づくり総合交付金の100万円でございますが、これにつきましては、今おらいもファミリーのおらいも君と、それからもう一人、今長男坊をつくるんですけれども、その2体の当初地方創生に盛り込もうとしたんですけれども、備品で対象にならないということで、道のほうのこの地域づくり総合交付金で補助金をもらうということでの計上でございます。</p>
<p>議 長 税務財政課長</p>	<p>税務財政課長 31ページのふるさと寄附金でございますけれども、きのう現在で金額で3,139万5,000円の寄附の申し込みがあります。件数でいうと3,520件ほどありました。 3,500万円までは一応今回補正して3,500万円までなんですけれども、この調子といえますか、一応寄附の流れでいきますと、ひょっとしたらちょっと届かないかもしれませんけれども、大体そこまで近づくかなと。 例年、ほかの町村も年末まではすごい勢いがいいと。特に12月につきましては、うちの町も11月までの月平均で大体300万円ほど来ていたんですけれども、12月になると一気に750万円くらい実は寄附がありました。ただ、年をまたぐと、ちょっと少ないというのがほかの町村の傾向でもありまして、それを予想していましたが、やっと3,000万円を超えまして、3,200万円を間もなく超えるような勢いですので、予算3,500万円までの補正額になりますけれども、思った以上の寄附が集まってきているかなという状況でございます。 中身につきましては、やはりトウモロコシ関係ですね。トウモロコシ関係でもう既に40パーセントくらい、一応その申し込み件数の中身になっております。そのほかメロンとかアスパラガス、やはり野菜系統、その辺が割合が大きくなっております。</p>

	<p>寄附金額の種類別にいうと、5,000円から2万円くらいまでで大体9割の金額の種別で申し込みの件数があります。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 高田議員</p>	<p>3番、高田議員</p> <p>プレミアム商品券なんですけれども、ということは、低所得者はそれなりに数がわかると思うんですけども、3歳未満の場合は、例えば双子の場合は2人分という捉え方するんですか。それとも、双子でも1人なんですか。</p>
<p>議長 保健福祉課長</p>	<p>保健福祉課長</p> <p>あくまでも3歳未満の子供の数ということなんで、双子であっても2人なんで2万5,000円掛ける2と。2万5,000円というのは上限額なんですけれども、そういうことです。</p>
<p>議長 山崎議員</p>	<p>ほかに歳入全般について質疑ありませんか。</p> <p>9番、山崎議員</p> <p>18ページの農林水産費負担金であります、国営相和地区の農地開発事業費過年度負担金1,257万7,000円あります。この内容説明をまずお願いをしたい。</p>
	<p>それと、その下の19ページの公営塾の利用者の負担、これについても内容説明を願いたいと思います。</p>
<p>議長 山崎議員</p>	<p>2点でよろしいですか。</p> <p>はい。</p>
<p>議長 農林商工課主幹</p>	<p>農林商工課主幹</p> <p>まず1点目の御質問、18ページの国営相和地区農地開発事業過年度負担金についてござい</p>

<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>ますが、こちらは当初予算で400万円を計上させていただいております。そして、1月時点の実績でなんですが、その時点で1,657万7,000円の実績ということになっております。</p> <p>また、補正予算ですから財源調整のため当初予算よりかなり多くなっておりますので、今回1,257万7,000円を計上させていただくものであります。</p> <p>ただ、こちらは現時点での実績での補正予算ですので、また年度末の決算は変わってくるかとは思いますが。</p> <p>御参考ですが、3月1日現在の納付額は1,825万円となっております。</p> <p>以上です。</p> <p>総務政策課長</p>
<p>議 長 山崎議員</p>	<p>公営塾の利用者負担金でございますけれども、当初の見込みが中学3年生を対象にということで、月額5,000円の10名の半年分ということで30万円を計上しておりました。</p> <p>実際に募集をかけましたところ、21名の3年生の塾生ということで、その分と、プラス冬期講習、それからこれから計画しておりますけれども、1、2年生を対象とした春期講習も今計画しております、これらを見込みまして69万6,000円、もう若干ふえるかと思っておりますけれども、39万6,000円の増額をさせていただいたところでございます。</p> <p>9番、山崎議員</p> <p>先ほどの国営の関係でありますけれども、当初はたしか負担金を400万円というような形の予算でスタートしたわけでありまして。それが1,200万円、補正だと1,600万円ということでしょうか。そうすると、これは土地の売買が進んだという意味なんでしょうか。それとも、単純に今まで支払わなかった負担金を支払っていますよという、そういう意味でしょうか。その</p>

<p>議 長 農 林 商 工 課 主 幹</p>	<p>辺どうでしょう。</p> <p>農林商工課主幹</p> <p>ただいまの御質問なんですけれども、その内訳という形になるかと思います。</p> <p>まず、内訳としましては、まず公売によって土地の処分が進んだものがございます。また、公売予告によって全て現金で全納した方。また、これは3月1日の納入分なんですけれども、本人が死亡しまして、その相続人となる者が全て納めたとか、そういう多々なケースあります。もちろん、ただ今まで徴収をしてきたとおり定期納付という分も含まれてございます。</p> <p>そういったことで、内訳につきましては多様なものではございますが、平成30年におきましては、今まで進めていた滞納処分、それが30年度に多く入ってきた部分もございまして、少し例年より多いような数字になっております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 議 長 議 長 議 長</p>	<p>歳入全般について質疑ありませんか。（なしの声あり）</p> <p>それでは、次に、歳出の質疑に入ります。歳出は3つに分けます。</p> <p>初めに、1款議会費から5款労働費までの37ページから60ページまで、次に、6款農林水産業費から7款商工費までの61ページから69ページまで、最後に、8款土木費から10款教育費までの70ページから85ページまでとします。</p> <p>それでは、最初に1款議会費から5款労働費まで。ページ数は37ページから60ページまでです。</p>
<p>議 長 中 山 議 員</p>	<p>1番、中山議員</p> <p>最初の1点目は、ページ数でいきますと40ページになります。</p>

	<p>この企画費なんですけれども、この企画費の内容を細目に分けて説明していただきたいと思えますけれども、1点は企業立地審議会委員の日額報酬が6万5,000円減額されています。これは大変大事な審議会と思うので、今年度、30年度中に開催された経過があるのかどうか。もしあったとしたら、どんな審議内容だったのかお知らせ願いたい。まずそれが1点でございます。</p> <p>次に、2点目ですけれども、56ページになるんですけれども、大変大きくここに扶助費あるんですけれども、扶助費が326万5,000円ほど減額されています。大変これ町長もさっき一般質問の答弁でも話されましたけれども、こういう不妊とか妊婦さんに対する厚い手当をしているわけなんですけれども、何か利用がないというのは寂しいなど。</p> <p>当初予算と比べて予算と実際にこのように減額せざるを得なくなったのか、その辺について内容を説明していただきたいというふうに思います。</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長 40ページの企画費でございます。企業立地審議会委員日額報酬、それから費用弁償関係ございますけれども、30年度について案件がなくて全額落とさせていただいているという状況でございます。</p>
<p>議 長 保健福祉課長</p>	<p>保健福祉課長 不妊治療費の扶助費の分ですけれども、まず当初、この不妊治療費扶助費につきましては、特定不妊治療、それから一般不妊治療、不育症の治療と、こういうふうな3項目なっていますが、特定不妊治療に関しましては3人掛ける3回ということで予算づけしておりましたが、今回までに実績はないんです。なくて、ただ、これから出てくるかもわからないということで、1人</p>

議長
中山議員

分の予算を残している。

それから、一般不妊治療につきましては予算で10人ほど見ていましたが、実際には今のところ1人だけ実績があって、これにつきましても、あと1人分を予算出てくるかもわからないということで残しております。

あと不育症の治療につきましては、予算は1人分、ただ、実績につきましては、ここはゼロだったと、そういうことになっております。

1番、中山議員

大変、総務課長残念でならないんですけども、この企業の立地が全くないというのは、うちの町として、こういう企業に対する興味とか、町自体も何とかそういう企業立地といいますか、それを目指して頑張っていたら、我々もこういうふうに残念な思いをしなくてもいいんですけども、町長どうですか。

その辺、何かうちの町に企業をとというふうな感じで、来年度以降、31年度以降そういうような何でも結構ですので、この審議会が開催されるような状態になってほしいなというふうに思うんですけども、その辺についての意気込みをちょっと聞きたいなと。

大変残念な結果で、全然やらなかったというんで、働くところがなければなかなか人口増加しようとしても難しいんでないかなと思うんで、その辺についても踏まえて説明していただきたいなというふうに思います。

不妊の最初何人くらいずつ予算見たのかなと。今年度、30年度、それでは全く妊婦さんといえますか、町で面倒見てやる方がほとんどいなかったのかなというふうなことで、当初は例えば救急車で函館市のほうに搬送してやるとかと、いろいろと手厚い看護を計画してあったんですけど

<p>議 長 保 健 福 祉 課 長 補 佐</p>	<p>れども、それも全くなかったというふうに、何か残念な結果だなと思うんですけども、それらについて今後、来年度に向けてどの程度の妊婦さんの数というのはどうつかまえているのか、その辺についてもちょっと説明していただきたいなど。</p> <p>保健福祉課長補佐</p> <p>この不妊治療のほうは、ある程度人数のところは予算としてはとっているんですが、やはり対象、この不妊治療を町でもやっているということは、かなりPRをしています。いろいろな母子事業のPRの時点でもしていますし、いろいろな健診等も行っていますので、そこはやっているんですが、なかなか対象が。</p> <p>ただ、今回は一般不妊治療で1件相談があって、そちらのほうは、この治療で妊娠ができたという実績もありますので、ここは対象が少ないからというよりは、今後ももちろんPRなり周知していくつもりです。</p> <p>函館市への救急車のネットづくりですね。それは今も継続していますので、必ず母子手帳を窓口にとりに来たときには、細かくいろいろなことを紹介している状況です。</p> <p>今年の年次でいうと出生は20人なんですが、ここ最近20人前後の出生という状況なので、大体このぐらいを推移するのかなということなんですけれども、30年度の婚姻が15なんです。29年は4組なんです。なので、30年度の婚姻が15ということは、31年度また妊婦さんがふえてくるということも可能性としてはあるのかなというところで予想をしているところです。</p>
<p>議 長 町 長</p>	<p>町長</p> <p>先ほどの企業立地の考え方等について申し上げたいと思います。</p>

実は今年度も企業立地といいたいまいしょうか、企業対象の会社がかかなりの件数は厚沢部町に来ております、実際は。いろいろ担当のほうで協議をしているようでありませけれども、なかなか実になっていないと、これが実態であります。

今こういう調子で、我が町は企業立地を考えても、まず無理があるなというふうには実は私も捉えております。新年度には機構改革をして専門な企業立地対策を講じなければいけない、こういうふうには考えているところでありませ。

そして、特に今近々に話も来ております。それは直接私に対応しておりますけれども、町内で北海道で初めての工作物を持ってくるという、こういう会社でありますけれども、まだ内々にしてほしいというふうな、これは企業誘致というのは大変面倒で、内部でも大っぴらにできないというのが大半なんです。内々でやって、最後の国なり道の協議会が終わってオーケーよという段階で、ようやく詳しい相談が来て進めましようかと、こうなるわけです。

そういうものなんですけれども、1回来て対応して、それきりあとはわかりませんというものが今現状ですから、こういう中で企業誘致はまず無理だと。4月には、それ専門の担当を置きながら積極的に企業誘致すべく手はずをとりたいたと、こういうふうには思っております。

いずれにしても、これからの時代の中で人口減少を防ぐための最大の手段ということでは考えております。ぜひ新年度早々にもいい話にしたいなということでは考えています。

1 番、中山議員

町長、今聞いて大変町長も心待ちしたいなと思うんですけれども、館中学校のカボチャの試験今回やっています。あの結果というのがもう町長のほうに来ているのかどうか。

館中跡の活用、それから鶉中学校跡の活用、これについては大変何か企業をやっぱりというよ

議 長
中 山 議 員

議
町

長
長

うなことを我々も考えているんですけども、なかなかいいアイデアがない、そういう状況がないということで、館のほうは今あのカボチャの結果というのが大変我々も興味があるんですけども、もう町長のほうに来ているのかどうかというのをまず1点。

それと妊婦さんのほうなんですけれども、なかなかもうちょっとPRで、町民の若い人方にわかるようなPRというの何かいい方法ないもんですかね。

母子手帳を持ってきたとき、初めて町としての妊婦さんとのかかわりになるのかなと思うんですけども、なかなか厚沢部町にはこういう妊婦さんに対して手厚い保護がありますよとかと何かPRしてもいいんでないかなと思うんですけども、何か我々も今、今日この予算書見て、初めてこんなに減額しなきゃ駄目なのかというようなことでちょっと残念だったもんですから、もうちょっとその辺何かPRに工夫を重ねてほしいなというふうに思います。

町長

館中学校の件であります、館中学校でカボチャの銘柄をとりましたさがらマロン、これの保存対策ということで今試験をしております。現在、教室1つを使って温度が6段階の温度で保温しておると。その結果によっては、ぜひ3月いっぱいくらいまでは厚沢部町のカボチャが出られるような、そういう保存対策ができれば、いふなれば、これが倍増するというふうな考え方で、今やっているのは農林省と、それから函館市の函館地興と町内の農業者と3者で今共同で試験をしております。試験結果は、この3月いっぱいに出ることになります。

しかし、先日、私ちょっとのぞきに行ったら、まだまだ温度は6段階やっているけれども、もっと段差を開いて温度の差をつけた中で試験しなければ、なかなか上のほうは長持ちしていますけれども、下のほうは腐食が入っているという、こういうのが現実ありますから、今年の試験結

<p>議 長 保 健 福 祉 課 長 補 佐</p>	<p>果で全部そうなるというふうにはなりませんし、これからの上のほうのデータ見て、よければ教室を2つ、3つもつなぎながら、町内のカボチャはほとんどそこへ収容できるような対策もできると。こうやりますと、農業所得は恐らく倍増になるだろうというふうに思います。</p> <p>ですから、今農林省が積極的に私どものほうに、全額農林省の金でやっていますから、これらを今注視しながら、ひとつデータ待ちといいたいでしょうか、データを見てよければ、ぜひまた教室を3つの4つも使いながらやりたい、こういうふうな考え方で、農家もぜひあの場所はそういう使い方をしたいという希望を持っていますので、そういう活用の方法がいいのかなというふうに思って今現在進めています。</p> <p>ただ、経過の中では、なかなか今面倒な状況になっております。さらなる検討をしながら、いいスタイルで貯蔵できる、これができますとサツマイモもオーケーになります、当然。ですからキュアリングがその中にある程度の作物はできるというふうになりますから、これは一挙に厚沢部町の今の大きな問題が解決すると、こういうことになろうかと思えます。</p> <p>今年もひとつ農林省に連続した支援をいただいて、ぜひこの試験続けたいなというふうに思っております。</p> <p>以上、カボチャはそういう状態であります。</p> <p>保健福祉課長補佐</p> <p>先ほど母子手帳の交付のときというふうにもお話ししたんですけれども、厚沢部町でやっている母子保健事業というものをお子様のいる家庭全員に、3月末に一覧の表と、あるいはそれぞれのやっている事業の説明も加えて子供さんのいる対象の全戸に送っています。</p> <p>それを見て予防接種等もありますので、お母さん方がそれぞれの事業に参加するというものな</p>
------------------------------------	---

<p>議 長 高 田 議 員</p>	<p>んですが、そこでもPRできますし、あるいは広報等にも載せたり、あるいはそれぞれ健診、予防接種、いろいろな機会であるときに、お母さん方にはこういうことということでPRをしています。</p> <p>先ほど私ちょっと妊婦さんが救急車利用をするほうをちょっと言いましたけれども、30年度からは妊婦健診等の交通費の助成を始めました。それを函館市の病院の助成をということで、かなり妊婦さん方はそれを活用をされていまして、それもちょっと手厚くなったのではないかなというふうに思っています。</p> <p>以上です。</p> <p>3番、高田議員</p> <p>私も中山議員と同じところを聞こうかと思っていたんで、あわせて、今の妊婦さんの受診費の扶助と交通費の扶助というのが減額が22万円と38万円なんですけれども、もともとのスタートが交通費の扶助のほうが結構あったところにこの額ですから、函館市だからそれなりの額なのかなと思っていたんですけれども、今までの使い方というのは、どのくらい使われているんですか、現実に。まず、これが1つ。</p> <p>それから、ページが近いんで先にこっち聞きます。</p> <p>57ページの清掃費のところ、当初のところでも聞いたんですけれども、生活排水処理施設の整備事業で520万円下がっています。ということは、もう大体いいところ行ったのかなという感じするので、何基使ったのかということと、今後まだ可能性としてあるところがあれば、それを教えていただきたいと思います。</p> <p>もう一つ、聞くだけやぼかなと思いつつながら、51ページ、扶助費のところの老人福祉施設の措</p>
------------------------	---

<p>議 長 保 健 福 祉 課 長</p>	<p>置の扶助費が940万円落ちています。落ちる理由ということは減ったからだろうなと思いつつ、今どのくらいの数の方がひのき荘なり、好日園でしたっけというところに行っているのかということもあわせて聞きたいと思います。</p> <p>保健福祉課長</p> <p>まず、老人福祉措置費の扶助費の関係でありますけれども、これにつきましては、ひのき荘と好日園、こちらに入っている方への扶助費なんですけど、予算では、ひのき荘11人と好日園が6人ということで当初見ていました。これの実績として、今現在ひのき荘のほうは10人、そして好日園のほうは4人ということで、合わせまして3人の減で推移しています。</p> <p>あと先ほどの不妊の交通費の実数というか関係でありますけれども、当初予算計上したとき、交通費につきましては単価掛けるまず335回分、これを見ていたんですが、今現在で165回実人数で23人ほどということになっております。</p> <p>交通費扶助のこの単価でありますけれども、1回2,450円ということで見えております。</p>
<p>議 長 建 設 水 道 課 長</p>	<p>建設水道課長</p> <p>57ページの清掃費の生活排水処理施設、合併処理浄化槽の補助金ですが、10件当初予算で見込んでいまして、6件今回平成30年度実施されています。新築が3件、社の山だとか、あちらのほうで建てた方が3件、それから既存の改修、城丘だとか、そういうところの改修で3件、都合合計6件見えています。ですから、130万円掛ける4件分の減額となっております。</p> <p>それで、新年度関係も同じように10件見込んで、申し込みのほうは今一、二件もう既に申し込み来ていまして、以前は平成28年くらいまでは30件くらい見込んでいて、20件くらいまであれだったんですけれども、平成29年からがたっと少なくなったんで、平成30年から10</p>

	<p>件ということで見込んで、国の補助金の関係もあるんですけども、来年度まで、この10件で予算計上して、その後、一応また5カ年計画を立てて見直して、国のほうにも補助要望だとかそういうのも絡んできて計画立てていく予定です。</p>
<p>議長 只野議員</p>	<p>7番、只野議員</p> <p>39ページの一番上の備品購入費なんですけれども、パスポート発給申請用機器購入費34万3,000円の減額なんですけれども、当初予算が70万円見ていたんですよね。それで35万円ぐらいそれこそその機械というんですか買ったのは、それと、このパスポート申請する一連の流れというのはどういうふうになっているんですか。</p> <p>そして、去年の10月から多分やったと思うんですけども、まだ半年たっていないんですけども、今まで申請件数というのは何件でしょうか。</p>
<p>議長 総務政策課長</p>	<p>総務政策課長</p> <p>これはパソコンの備品は購入でございます。執行残で落とさせていただいているところでございます。</p> <p>流れ的には、まず、戸籍の関係ありますので、写真だとかもありますけれども、まずうちの総務の窓口に来ていただいて、それら必要な書類の説明させていただきます。どうしてもとっていただかなきゃならないのは、まず写真と、それから戸籍の標本を窓口に出してもらって、5年物と10年物がございます。5年物は、基本的には二十未満の方は5年物しかとることはできません。</p> <p>来てもらって、うちで書類の確認させてもらって、それからでき上がるまでといいますか、うちのほうで直接つくるのではなくて、それを札幌市にパスポートセンターというのがございまして、そちらのほうで作成して、またうちの窓口に来て本人に渡すという流れ、大体受付してから</p>

<p>議 長 議 長 下 川 部 議 員 議 長 総 務 政 策 課 長</p>	<p>何もなければ2週間程度ででき上がるという内容でございます。</p> <p>それで、これまでに受けた件数でございますけれども、10年物で12件、それから5年物で4件、今のところ16件申請されているという状況でございます。</p> <p>ほかに。1款議会費から6款労働費まで質疑ありませんか。</p> <p>6番、下川部議員</p> <p>42ページの8番、報償費なんですけれども、地域おこし協力隊の報償費の減額理由と、下の13番の委託料の全ての減額になった理由と、次に、43ページの同じく委託料で減額になった理由を詳しく説明をお願いします。</p> <p>総務政策課長</p> <p>まず、42ページの地域おこし協力隊の報償費でございますが、当初予算で新規を3名ほど見ておりました。実際に現在新規で入られている方が2名と。それから、昨年度中に協力隊やめられた方2名おまして、それら総合的にいきますと、大体3人値ぐらいの報償費が減額となったところでございます。</p> <p>次に、13節の委託料でございますけれども、まずまちづくり推進業務の委託につきましては、これにつきましては素敵な過疎づくり株式会社のほうに委託しております。まちづくり株式会社に委託している推進業務でございますけれども、この中で新たな過疎会社の職員1名を見込んでおりましたが、人員が見つからずといいますか、配属できなくて1名分の人件費を落としたのが内訳でございます。</p> <p>あとは執行残といいますか、地域おこし協力隊のコーディネート業務、それからアートキャンパスにつきましては、事業の実績により残額を落としているという内容でございます。</p>
---	---

<p>議長 下川部議員</p> <p>議長</p>	<p>それから、43ページの委託であります、これにつきましても、上から行きますとウエルカムファミリーのまち形成事業委託料でございますが、これにつきましては、民間業者によります昨年29年度に認定自治体といいますか、子育てのそういう状況が整っているということでの自治体の認証をしていただいたところですが、今年度につきましては、認定こども園ができることでこども園の認証ということでの委託で執行残でございます。</p> <p>それから、移住交流コンシェルジュ業務の委託料の200万円、これにつきましても、これも過疎のほうに委託している委託料でございますけれども、これにつきましても移住コンシェルジュ業務の中に見ております人件費相当分の減額でございます。</p> <p>それから、公営塾の運営体制構築事業の委託料につきましては、民間さんに塾の体制構築についてのアドバイス、それからスタッフについての研修等の委託でございますけれども、これにつきましても執行残で18万7,000円の減額となっているところでございます。</p> <p>6番、下川部議員</p> <p>一番最初の回答していただいた地域おこし協力隊報償費なんでありますが、3名やめられたということで、1月末に議会報告会で下地区の報告会にて、ある女性の町民の方が地域おこし協力隊を早々にやめる理由には何かしら原因があるのではないかとということをして議会としても問い詰められまして、その旨、我々議員は何一つ答えられることもなく、やめた理由も行政のほうから聞くことしかお答えできないという結果だったんですが、それとして、今ここで改めて、やめた理由、もしくはやめるに至ったまでの主な諸事情を隊員に聞いているのかどうなのかということをお聞きしたいんですが、どうなんでしょう。</p> <p>総務政策課長</p>
-------------------------------	--

総務政策課長

1 1月末で退任された方のことだと思いますけれども、この方につきましては、当初素敵な過疎づくり株式会社のほうに在籍しております、1年経過後、そちらの仕事をする上で何か自分で考えている事業といたしますか、そういう計画があるということで、具体的には空き家を活用した何か事業を展開できないかということで、昨年度末ぐらいに、一応うちの企画の担当のほうにはこういう構想があるんだけれどもなかなか先進まないといたしますか、素敵な過疎を離れて1人で計画を練っていること自体が何か自分に逆にプレッシャーになったといたしますか、そういうことで昨年の秋ぐらいに、このまま厚沢部町にいても次展開できないのかなということで、1 1月末をもって本州のほうに帰られたという話を聞いてございます。（ほか2名はの声あり）

もう一人の方につきましては、寿退任といたしますか、7月末で御結婚されて、1名町外に転出されたという方でございます。

議長
下川部議員

6番、下川部議員

やめられた方というか、議会報告会にて一般町民の方が、きちんと協力隊の方も実際は行政に向かつてははっきり言えないんだよと、思ったことを。だから、それをもうちょっといろいろな方と言ったら変なんですけど、中にはそういう方と仲よくしている方もいらっしゃいますので、そういう人の意見を積極的に聞いて、そういう協力隊が来たのであれば長期滞在させるような努力をするべきじゃないかということ、ここにいる議長がかわって、かなりくどくどと延々と言われたわけですが、そういうのも踏まえて、それもあるべきだなということも僕個人も考えたんですけども、例えばその理由を聞いて、はい、さようならではなくて、やめていかれる方の対応もうちょっと今後に活かしてやるべきではないかなと思うんですけども、それぞれ情報社会でするので、そういった当町の至らない部分とか、よかった部分とかが、もうすぐSNSとかでもう

<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>拡散する時代ですので、そういう部分も反省しながら来期に向けて行政としても取り組んでもらえればと思います。</p> <p>最後の質問をしたいと思うんですけども、43ページの委託料でウエルカムファミリーのまち形成事業なんですけれども、もうちょっとこの詳細を、勉強不足なものでわからない、詳しく教えてください。</p> <p>総務政策課長</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>民間企業名言ってしまうとあれなんですけれども、これにつきましては、今年4月から開園するこども園の認定といいますか、それを全国に発信するという形での委託料でございます。今回建設しましたこども園の建物だとか体制づくりだとかのほうにも携わってもらって、監修して認定するという運びになっておりまして、今それが、たしか今月中に認定の運びになるというような話で聞いてございます。</p>
<p>議 長 下川部議員</p>	<p>子育て世代に、厚沢部町はこういうことで子育てに優しい町だとか、こういうのがありますよというのを町外に向けて発信するというところの委託でございます。</p> <p>下川部議員、今の答弁でよろしいですか。</p> <p>はい、いいです。</p>
<p>議 長 総務政策課長</p>	<p>それと、やめていく地域おこし協力隊の隊員に対する町としての今後の対応はどういうふうにかえるかと。</p> <p>総務政策課長</p> <p>この彼につきましては、去年の秋ぐらいでしたか、担当のほうから実は悩んでいるということで私も二、三回コンタクトをとりましたが、かつて彼、狩猟免許を取りながら、学生時代</p>

<p>議 長 総務政策課長 議 長 議 長 議 長 議 長</p>	<p>から、こちらのほうで町内のある農家さんのお手伝いもしたことあるというところの関係から、そういう農家さんとのつながりもあるようなので、そちらのほうに相談行ったらどうかというような、そういうもうやめたいんだけどもというところから、ちょっと二、三回は折衝したんですけれども、なかなかもう人と話すのが嫌だといいますかというような話で、その当時の関係だったら応援してもらった農家さんにも相談できないというような形で、どうも最終的には帰る決断に至ったというような運び、相談は、こちらのほうからも問いかけはしたんですけれども、なかなか人となじめなくなったみたいなの、そういう話でございました。</p> <p>町とすれば、それなりの対応をしたということですのでよろしいですね。</p> <p>何回か、はい。</p> <p>それでは、議事の途中ですが、14時45分まで休憩します。(14:30)</p> <p>休憩前に引き続き会議を開きます。(14:45)</p> <p>議事を続行いたします。</p> <p>歳出1款議会費から5款労働費まで。ページ数は37ページから60ページまで質疑ありませんか。</p>
<p>議 長 山崎議員</p>	<p>9番、山崎議員</p> <p>まだ款の途中なんだけれども、ちょっと指導を願いたいと思いますが、補正が全部ある程度三角がついて、こういうふうにして羅列するということは、これは将来的には不納額という意味なんでしょう。今のこの時点で三角ということで、もう必要ないよと、そういうことなんでしょう。さっきなら決算であれば、それが不納額というような格好ということではないですか。(不用の声あり)</p>

うん、不用額。（三角はなくなるの声あり）なくなる。いや、だから、それが決算になれば不用額になって、ならいの。（いや、ならないの声あり）

それともう一つは、かなりやはりいろいろな厳しい財政だというふうに言われているんですが、財政調整基金、39ページはまた3億円ですね、これはまた基金。そうすると、4億8,000万円という金になるんですね。

なかなかやり方が上手なのか、それとも、またある意味では、いろいろなところで事業の展開が十二分でないということであって、このくらいの資金に余裕が出るという、そういう意味なのか、その辺のところの読み方としてはちょっと私は推測できませんけれども、いずれにしても当初結果3億円というような形で、ということは3億円でも総体的計で4億8,000万円ですから、調整基金の積み立てが大変な額だと思うんですが、これをこのように各課余裕があってこういうことをやったというのになるのか、それとも町長がいろいろな財力を引っ張ってきて、そういう結果がこういうことなのか、どうなんでしょうか。

議
町

長
長

町長

今、財調の積み立てだとか、こういうものの金が積立金の総額が大きいという、こういうお話であります。予算はご案内のように当初で説明しておりますように、交付税はおよそ国で来る満度の8割程度より予算は歳入見込みをしております。したがって、予想どおり来ると、その交付税の2割は完全にここに残ってくる格好であり、それから、それで積み立てると。

これが基金に積み立てるというのは、いろいろなもので、例えば農業費の中でこれこれをやりますよ、それから例えば企画費の中でもこういう事業やります、先ほど総務課長が話したように道の別な機関の中から100万円補助金もらったとか、こういうものは最初から一般財源になっ

議 長 議 長 議	<p>ているわけですよ。</p> <p>一般財源でなくて、それにプラスアルファで入ってきたものは、100万円というのは余り三角で出てくる。そういうものが積み上がって3億円、4億円というのは基金のほうに積み上げるよと。</p> <p>これは基金があくまでも将来の子供たちのためでもあるし、これが町の突拍子もない災害が起きて農家に支援したり、こういうときのための財源確保しておくわけですから、最低でも一般会計の予算額だけ基金は持つべきというのは、これは地財の本来の考え方ですから。それまで一般会計の額になるまで基金は積みますよ、これが一番安定した財政運営でなるわけ。</p> <p>それまで、正直言うと道内ではたくさんあるんですよ。交付税3億5,000万円くるだろうという、2億円よりこなくて赤字を出すという。こういうのは今度一時借入金をして賄ったりなんたり、そういう自治体はたくさんある。でも、うちはあくまでも最初から積むという考え方。代々財政課長は、前の前の課長から年間3億円ずつ積みなさいと、そういう節約する予算を立てなさいと、こういう進めをして今まで来ましたから、これはそのとおりになってきたと、こういう考え方であります。</p> <p>インチキして過剰な予算を組んでという、年度末に余して積んでいると、こういうこととはわけが違います。そういうことで理解してほしい。何ぼ積んでもこっちの金ですから。</p> <p>山崎議員、よろしいですか。</p> <p>ほかに、1款議会費から5款労働費まで質疑ありませんか。（なしの声あり）</p> <p>それでは、次に、6款農林水産業費から7款商工費まで。ページ数は61ページから69ページまでです。6款農林水産業費から7款商工費まで質疑ありませんか。</p>
-----------------------	---

<p>議 長 中山 議員</p>	<p>1 番、中山議員 6 5 ページになりますけれども、ここに農業後継者育成事業費あるんですけれども、この中で賃金 1 2 0 万円、農業実習生の作業賃金が減額されています。これは何名分ですか。</p>
<p>議 長 農林商工課主幹</p>	<p>農林商工課主幹 6 5 ページの賃金につきましては、1 名分でございます。</p>
<p>議 長 中山 議員</p>	<p>1 番、中山議員 近年余りこの実習生が研修センターに在宅しないというような結果が出ているんですけれども、どうですか、この先もこういうふうであれば、なかなか農業実習生が、ここは一番農業の後継者に対してはいろいろな勉強できる場なんで、ぜひともここは確保して農業後継者を育成してほしいなと思う。</p>
<p>議 長 農林商工課主幹</p>	<p>ここがゼロというのは大変残念な結果なんですけれども、この辺について今年はどういう努力したのかなというふうなことを説明していただきたいと思います。</p> <p>農林商工課主幹 確かに 3 0 年度につきましては、実習生がいなくて全て減額ということになっています。こちらにつきましては、昨年 2 月、2 9 年度末に募集して、3 0 年度の実習生がいなかったという結果でございます。</p> <p>3 1 年度の実習生につきましては、今年入ってから 2 月に募集をかけまして、今現在 1 名の採用が決定しております。こちら町内、鶉の出身の方で 1 9 歳。農業のほうを目指すということで、活性化センターで勉強する、あと公社のほうで技術を学ぶということで 1 名を確保できております。</p>

	<p>確かに中山議員心配されるように、平成27年度を最後に実習生がいなかったということで、久々の実習生ということで役場としても期待しているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長</p>	<p>ほかに6款農林水産業費から7款商工費まで質疑ありませんか。</p>
<p>山 崎 議 員</p>	<p>9番、山崎議員</p>
	<p>62ページの農林水産業費の負担金補助金及び交付金なんですが、各事業ほとんど三角で276万2,000円というような形で補正がされております。いろいろな部会の会合に出ますと、去年のいろいろな大きな被害、影響あったのは、何かしら厚沢部町に弱い点があるんだという、そういうことを言われる方がおります。せっかくこんなに予算つけているのにも、こういうふうにして予算を余して、こういうような形で補正を組まざるを得ないというのはどういうことかなと思ったり、まずこれが第1点。</p> <p>それと、先ほどちょっと是廣課長とお話したんですが、農業関係で直接この予算の補正とは関係ないんですが、実は広報「あっさぶ」では、山本さんという方が厚沢部町でぜひ農業をやりたいんだという、そういうかなり力強いメッセージを発していました。しからば、本当にやるのであれば、我々がどういった助けを必要とするのか察してあげたいのかと、そんな議論を今ちょっと課長と話されたんですが、その辺のところは農林商工としては何かしら、そういう彼方とのいろいろな接点を持ちながら相談かけるとか、いろいろなそういうことをされているんでしょうか。</p> <p>実際この予算の補正とはかかわりないんですが、総体的にそういうことで考えてみましたので、ひとつお願いしたいと思います。</p>
<p>議 長</p>	<p>農林商工課</p>

農 林 商 工 課	<p>地域おこし協力隊の方とは、来てから幾度となくいろいろと打ち合わせをさせていただいております。当然ながら、冬期に入ってきたということなものですから、まず何ができるのかということから、いろいろと課内の中でも来る前から打ち合わせをしながら、どういうふうに受け入れていこうかということをしていろいろと察していただいております。</p>
議	<p>そして、今はアスパラの伏せ込みであるとか、そういうことの作業からまず始めていただきまして、それから活性化センターの中の作業に従事もしていただくようなことで、春を迎えたら今度さまざまな農業作業の体験をしていただくというようなことで今考えております。</p>
長	<p>どなたになるかあれですけども、先ほど山崎議員言ったように、厚沢部町農業でこの負担金交付金で276万円の不用額出ているということで、厚沢部町農業について町としてどのように考えておられるのか、弱いところはどういうふうなところがあるのか、ここら辺のことをどなたか答弁をお願いいたします。</p>
議	<p>町長</p>
町	<p>農業の負担金補助、これらにつきましては、今ここで経営所得安定化からずっと並べて、そして不用額が出た。この不用額は、要するにやらなくて不用じゃありません。それぞれの項目ごとに事業は進めています。</p>
	<p>進めていて、最大限の予算の活用をいただくための予算を組んであり、しかし、その部門ごとには、農家はその年によっては10人予定していたのに8人よりやらないとか、あるいは安定化特別対策事業補助金なんていうのは、これは我々が誠意を持って農家の方々に町と共同でかけている安定化基金ですから、こういうものの中での余りというのは、これは我々にしてみると、そういう年があって当然というふうな考え方もしています。</p>

全部が全部ゼロに使われるというのは、これは不思議な話になり、だから、ここでいう小規模土地改良基盤整備事業なんていうのは、それぞれの農家が小規模土地基盤整備をやるけれども、私は暗渠と整地だけやる、私は客土と水路だけやるとか、それぞれの希望者は希望が変わるわけですから、それによって事業費も当然動きますし、全体予算の中でそれぞれの受益者がその中で配分受けてやるわけですから、その中での端数的な物は当然余ってくると、こういうことであります。

あえてこの三角が出るのが、こういう町がけちって残している話じゃなくて、実際は農家が直接やっているけれども、最大限やっつての残り金と、こういうふうにとってくればいい話で。

9番、山崎議員

私は、ある意味では、行政からのアナウンスがちょっと足りない部分あるかなと思っています。こういうことも補助の対象になるんですよ、こういうこともいいですよというようなことを周知しないで、雨が降ったら被害受けました、ただ、そういうこと。だから、小規模なんて70万円でもさ。だから、もう私はどっちかといっても足りないくらい事業展開してもほしいと思っているんです。そして、足りないから何とか補正しましょうかという話だけれども、余ってしまっつて補正なら、何だね。

だから、私はある意味では、ちょっとそのパイプがないもんですから、わからなくてという、その面もあるのかなと思ったりもしています。

それと、せっかく、さっき山本さんのお話しましたけれども、ああいう優秀な人が厚沢部町に来て農家やりたいと、こう意思表示しているわけですから、何とかしてやっつて手助けしてやりながら、彼に一生懸命厚沢部町で根を張らせてあげたいなど、そんな気持ちでありますので、よろ

議長
山崎議員

議
町

長
長

しく御指導願いたいと思います。

町長

今ちょっと説明するのに足りない部分ありました。ということは、例えば農業費のほうにありますけれども、この基盤整備がある。これは本当の小規模の話で、これより拡大してやりたいというのは、そちらの補助事業のほうできちっとありますから、そちらのほうへ振り向けていけばいい話で、物をけちって縮小してやっている話ではありません。

ですから、それは農家の方々がそっちの事業を選べばやるし、この辺がもしPR不足だということであれば、これは土地改良区を通じて、こういう事業、ただこれも長年やっています、この事業は。だから、農家の人は知らないということにはならないと思いますけれども、もし知らない人がいれば、事業内容については、担当のほうでは受け付ける際には詳しくうちの農政担当のほうでは説明をしていますので、そういうことで、こういう最大限これからも農家には使っていただくという考え方でおります。

それから、山本さんの件ですけれども、とんでもない学校を出た優秀な方であります。そういう方が、これは最後まで農業で厚沢部町にくっついてやっていけるかどうかという、こういう心配もないわけではない。

じゃ、ならば、こういう頭のいい人が、この農業の町でどういう部門で活躍していただくのが一番いいのか、どういう場所に置いてやるのが一番いいのか、こういうのがそもそもこの町の応援隊で来たわけですから、そういう先をこちらが指導してやる、こういう部分も大事だろうと思いますから、いずれにしても、第一義は本人の希望体制、第一義。第2には、こういう指導の中で方向を誘導してあげるといいうのも大事な話であり、ぜひ山本さんどのくらいの考え方を持って

	<p>いるかわかりませんが、単なる1年、2年やってやめて、さようならということにならないように、きちっとした農業実績を踏ませるといふ、こういうことが大事だろうと思いますから、行政が単なる見捨てたみたいないい方されないようにきちっとやっていきたいと、こういうふうに思います。</p>
<p>議 長 議 長 下 川 部 議 員</p>	<p>ほかに、6款農林水産業費から7款商工費まで質疑ありませんか。</p> <p>6番、下川部議員</p> <p>66ページのまず林業振興費の中で、負担金及び交付金の中で民有林の枝打ち、下刈り、除間伐に対する補助金で242万1,000円が減額になった内訳と、それと下のページ、67ページの町有林のほうも1,000万円ほど減額になっているんですけれども、その主な理由を説明をお願いします。</p>
<p>議 長 副 町 長</p>	<p>副町長</p> <p>まず、一番大きいのは枝打ちが落ちているんですけれども、枝打ちにつきましては、2メートル、4メートル、6メートルで枝打ちするという国のメニューとしてはあって、昨年度まではそれを実施してきたわけですけれども、全体の北海道の来た配分補助が大分少なくなってきておりまして、北海道の補助メニューとして6メートルの枝打ちが補助対象外となった。2メートルと4メートルだけが残ったということで、当初予定しておりました6メートル分については補助事業がなくなったものですから、それら民有林のほうも町有林のほうも、まず一度それは実施していないということでございます。</p> <p>その他は、間伐等については面積的には同じくらいやったんですけれども、標準単価の改正がありまして、これは上がるんじゃなくて下がったということで落ちております。</p>

<p>議長 下川部議員</p>	<p>あと、その他いろいろありますけれども、ほぼほぼ入札残りの落ちということでございます。</p> <p>6番、下川部議員</p> <p>理解すればいいんでしょうけれども、先ほど、どうも町長が基金のことを言ったものですから、これも何か基金の策略で、積み立てするためにその分減額されたのかなという何か僕の思いもありまして、それを本当に信用していいものかどうか、今ちょっとここで正直な気持ち思っています。</p> <p>基本、民有林でもそうですし、町有林に関してもそうだと思うんですけども、厚沢部町森林組合のほうからの要望の時点で、計画の段階で本来であればわかることなのに、どうして途中で6メートルが駄目でとかとなったんでしょうか。</p>
<p>議長 副町長</p>	<p>副町長</p> <p>私も担当の者から聞いたときには同じ思いで、おまえ、これいつわかったんだという話をしたんですけども、予算策定期間については、道も町も同じ12月ころにはもう策定するというものでありまして、その時点では新年度予算のときには6メートルの話は承知してなかったということだったというふうに聞きました。</p> <p>それで、基本的に民有林、町有林につきましては、補助金がついた時点で、民有林の場合は国の補助の上乗せ分として支払っている分ということでございますので、その補助がついた分は確実にやっているということでもあります。</p> <p>ですから、町が予算を森林組合から要望あったのを落としたりとか、そういうことはありません。ただ、下刈り分の補助要請については20パーセントということで来ていますが、10パー</p>

セントにしているというところでございます。

まず、民有林のほうを優先して予算を確保しまして、その残り分の補助分を町有林で実施しているということで、町有林のほうで調整しながら事業を進めているというところでございます。

それと基金に積むために落としたのかとか何とかというお話もございましたけれども、それは全くないわけで、基金は貯金するほうでございます。繰入金というのが歳入のほうでございます。それも同じ4億円くらい昨年はおろしました。ですから、貯金する額と貯金崩した額と約同じほどという今年度でございます。なぜかといいますと、8億円の大型のこども園事業があったということでございます。

そういうことで、かなり町の財政的にも大変な今年度だったわけですがけれども、貯金の取り崩した分、最終的には積めたということで、よかったと思っております。

それと、方法として基金が地方自治体多く持っているということで狙われているのが財政調整基金なわけでございます。それから公共施設への積みかえというんですか、そういう技術的なテクニク的な面もありまして、4億8,000万円くらいおろして、4億8,000万円くらい積んだということもございます。

6番、下川部議員

大分わかってきました。

いわば最初からの話だと、国と地方自治体との意思疎通がなっていかなかった、もしくは国のほうが怠慢なのか、地方自治体のやり方がおかしいのか、それはここで僕がどうのこうの言うことではありませんけれども、ただ、そういうのも踏まえてなんです。厚沢部町自体もそうですし、厚沢部町森林組合とさまざまな部分で協力し合いながら林業に関しては計画し、予算計上してい

議 長
下 川 部 議 員

<p>議 町</p>	<p>と思うんですけれども、厚沢部町も林業の町、1次産業でもありますから、ただ、今僕がここでしゃべるのは、やはり厚沢部町1次産業で林業の町と言われているぐらいなので、それに携わっている方もかなりいるんですよ。</p> <p>ただ、どの辺まで協議しているかわかませんが、僕としては、せっかく計上したものをこれだけの数字を減額するという事は、それを当てにしていた組合員さんのほうで仕事が減るとなると、その人方にもさまざまな部分で影響が出るんじゃないかなというのは今僕が危惧しているところではあるんですけれども、今後こういったことがないように、極力予算計上したものはきちっと執行してもらってやってもらえればなと思うのと、最後に副町長が基金は財政基金でテクニックを使ってやっていると言っていますが、国はどの懐も勝手に見られる団体であるので、金を持っているかどうかは、全て国は隠してもばれるということだと思っんですよね。だから、それをうまくなのかどうかはわかりませんが、今この質問は林業振興費なんで、今後極力計画に沿った予算執行をしてもらえればと思います。</p> <p>町長</p> <p>下川部議員が非常に疑問に思っている、疑問といいますか不審に思っている枝打ちの関係でありますけれども、国のほうから毎年、単価改定というものが出されます。この事業に対する、枝打ちだとか、植栽だとか、間伐だとかという、そういうものの単価が出ます、これが6月。たまたま6月に正式に枝打ちが廃止ということが出た。</p> <p>従来は、この枝打ち事業というのは6齡級以下の部分と、それから今先ほど説明しました12齡級以下というものが事業で今言う2メートル、4メートルというふうなランクで枝打ちさせておったんですけれども、それがこの単価改訂と同時に正式に枝打ちが廃止になったと、こういう</p>
----------------	--

<p>議 議 議 浜 塚 議 員</p>	<p>通知が国で出したのが6月、私どもの予算組んでいるのはもう3月ですから、この辺のギャップがあるわけでありませう。</p> <p>そういうことで、インチキで我々が廃止前に組んだんじゃなくて、当然例年どおり枝打ちもやりたいということで予算組んで進めているわけですけれども、これが国が受け入れられなくなったということで今回はとまっております。その余り金と、こういうことになるわけです。</p> <p>我々、この産業関係、森林組合でやっている産業については、精いっぱい森林組合をやっているわけですから減らすつもりももちろんありませんし、民有林の方々は自分の木材に精いっぱい育てていただくためにも森林組合の頑張りが必要なわけですし、そういう中での委託事業にかかわる予算減というものはあり得ませんので、たまたま本年度については6月に国から道に来て、道から我々のほうに単価改定が入ってきたと、こういうことでございますから余り疑問に思わないで、やむを得ず落としていると、こういうふうに理解していただきます。</p> <p>ほかに、8款土木費から10款教育費まで質疑ありませんか——すみません、間違えました。6款農林水産業費から7款商工費まで、ほかに質疑ありませんか。（ありませんの声あり）</p> <p>それでは、最後に、8款土木費から10款教育費まで。ページ数は70ページから85ページまでです。</p> <p>4番、浜塚議員 2点ほどお伺いします。</p> <p>まず、75ページ、通学バスの運行管理費238万6,000円補正になっていますが、1割以上ということで、当初の見積もり違いかな、それとも何かの理由あると思いますので、それを1つお願いしたいと思います。</p>
----------------------------------	---

<p>議長 教育委員会 事務局 長</p>	<p>それからもう一つ、教育費 8 2 ページです。コーディネーターの賃金、これ議会報告会でも要請されました。コーディネーターをぜひとも置いてもらいたいということで要請あった件と同じことだと思います。</p> <p>去年もたしか同じくらいの賃金が計上されてあったと思うんですが、コーディネーターを今後どうするのかというような基本的な考え方、1つよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>教育委員会事務局 長</p> <p>通学バスの運行管理費につきましては、これは初年度ということで、業者のほうから見積もりを出していただいた形で予算措置をさせて当初いただきましたけれども、入札によって1割程度ということになってしまうんですけれども減額になるものでございます。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 教育委員会主幹</p>	<p>教育委員会主幹</p> <p>8 2 ページのコーディネーターの部分でございますが、募集を継続しておりましたけれども、現在に至ってもいないということでございます。</p> <p>その経費の補正減ということになりますけれども、じゃ、今後どうしていくのかということでございますけれども、考え方を新たにといいますか、維持管理の部分ですか企画の部分、全てを含めて民間委託を引き受けてくれるところがないか、そういうのを検討していきたいというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議長 浜塚 議員</p>	<p>4 番、浜塚議員</p> <p>通学バスはわかりました。</p>

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>コーディネーターの件ですけれども、これはたしか1日7,700円だかという単価でなかったかなと思います。ちょっと勘違いしてもあれですが、その単価、賃金が低いというようなことも多分に考えられるのかなという部分で私は質問をしているんですよね。だから、民間に委託したらどのくらいでおさまるのかという部分はわかりませんが、その辺はどうでしょう。賃金のことに関しては。</p> <p>教育委員会主幹</p> <p>賃金については、日額現在7,500円で、役場の臨時賃金と同じで考えています。</p> <p>確かに専門的な部分も入ってきますけれども、なかなか募集しても来ないということですので、民間も含めて教育林の活用の企画も含めて、民間で委託できるところを探すという形で今のところ考えております。</p>
<p>議 長 教 育 長</p>	<p>教育長</p> <p>今の教育林の管理費の件で、まずコーディネーターに関しましては、議員御指摘のとおり、昨年度を受けて大変実は水面下でもかなりの努力をしたり、いろいろな発信をしながらやっておりました。また、さらには、この勤務形態も、できるだけ週に例えば毎日であったものを3日でいよいよですとか、そういういろいろな工夫をしながら発信もしておりました。</p> <p>定期的にもそれをチェックしながら、ハローワークも通しながらもやっていた中でも、なかなか来手がないというところでありまして、今、民間ということで主幹のほうでお話しましたけれども、民間も含めて今までのとおり発信もするんですが、これから考えていきたい手だての1つとして今模索しているというところが、今主幹が申しあげましたように、ある総枠の管理費をもってある程度、例えば今行っている事業の全てを含んだ8割方のものを委託すると。その中で</p>

<p>議長 浜塚議員</p>	<p>全てコーディネートも含めて管理もしてもらおうという工夫を今しているところです。</p> <p>何とか、これも管理も含め、それからいろいろな意味で教育林の活用も含めて推進していきたいというのは、もう当然のごとく我々も努力しているところではありますが、なかなか人材がいないというところでの今工夫の一端を若干わかりやすく主幹のほうでお話ししたというふうに御理解いただければと思います。</p> <p>以上です。</p> <p>4番、浜塚議員</p> <p>工夫、大変大事なことと思います。ただ、私、本当に気になるのは、賃金が安いんでないかというような部分が一番気になる。ということは、補正だということは専門職というようなことになるのだらうと思います。そんなことで、その部分が大分影響しているのかなという感じがするもんですから、こんな質問をさせていただきました。</p> <p>わかりました。ありがとうございます。</p>
<p>議長 山崎議員</p>	<p>9番、山崎議員</p> <p>82ページの教育林の管理費の関係、委託料でレクの森遊歩道等の草刈り委託料、これが26万1,000円ほど三角ということでもあります。私どもは、町民のほうから草刈りの回数が少ないんじゃないかという、そういう実は声も上がって、昨年度所管事務であの上まで上がっていったんです。</p> <p>その中で、やっぱり草刈りの回数が少ないのかなと、そういうような感じも受けてきましたし、また実際に聞いてみると、教育林ということで1,000人を超すような入山されている方がいるということも聞いています。ですから、ただ、遊歩道を歩いてみると、倒木の危険性のあ</p>

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>るようなものもすぐそばにはあるんですよね。だから、その辺のところを切って整備したほうが いいなと思って、考えたりしたんです。</p> <p>それは、いろいろなこういった委託をかけて草刈り等々やっていると思うんですが、実際、予 算をこういうふうにして余すというようなことは、何回くらい実際に草刈りやられたんでしょ うか。それをまず先に、ひとつお聞かせ願いたいと思います。</p> <p>教育委員会主幹</p> <p>委託料の件ですけれども、草刈り年2回を実施しております。それで、これが執行残という形 で補正減をさせていただいております。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 山 崎 議 員</p>	<p>9 番、山崎議員</p> <p>私は年に2回というのは、ちょっと不足だなというふうに思います。それは、どのような 手法でやられるかわかりませんが、入山される方が安全に、あそこの山林を散策するとな れば、もうちょっときれいに事故のないような、そういう心配りが必要かというふうに思いま すので、今後ともそういう検討を加えてほしいなというふうに思います。</p> <p>それともう一つ、84ページになりますが、これも体育施設費の委託料であります、総合グ ラウンドの芝刈りとか、施設管理委託料、これも5万9,000円ほどのという三角でありま す。</p> <p>これは何か聞くところによると、総合グラウンドのほうも芝刈り、あのグラウンドの整備が余 り十二分ではないというようなことを聞かされています。それと同時に、この芝刈り機が大変古 いで、まともな性能でないというようなことも聞かされておりますが、その辺の実情もちよっ</p>

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>と御案内していただければというふうに思いますので、お願いしたいと思います。</p> <p>教育委員会主幹</p> <p>ただいまの質問、84ページの草刈り施設管理委託料のマイナス5万9,000円の減でございますが、これは総合グラウンドの草刈りで、野球連盟さんのほうに委託している部分でございます。これは執行残という形で落とさせていただいております。</p>
<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>芝刈りの分は、多分パークゴルフ場の芝刈りの件ではない……</p> <p>違う、違う、総合グラウンドのという。</p> <p>グラウンドですか。</p> <p>グラウンドの草刈りに使っている大きいトラクター、乗用のやつありますけれども、それも相当年数が経過しまして、修繕しながら何とか使っている状態にあります。</p> <p>以上です。</p>
<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>修繕しながら、まだまだ使えるのか。</p> <p>そうですね。今のところ大きなものとしては故障というのとはなくて、ちょっとずつ故障を直ししながら、部品も足しながら何とか使っている状態です。</p>
<p>議 長 山 崎 議 員</p>	<p>9番、山崎議員</p> <p>今発言したのは総合グラウンドでありますけれども、ちょっと今三上さんがおっしゃったパークゴルフの関係も実はあるんですよね。その部分が出てきてないので潤沢に行っているのかな……</p>
<p>議 長 山 崎 議 員</p>	<p>ここにまだ載ってないんですけれども。</p> <p>載ってないんですけども、ついでだから話しました。</p>

<p>議 長 山 崎 議 員 議 長 中 山 議 員</p>	<p>今機械の関係で余りいい機械でないというようなことを聞いたんで、ただ私どもとしましては、そのパークゴルフ場の機械もよくないということを知っていて、何とかしてほしいんだという、そういう要請も受けています。その辺のところも検討材料の1つにして検討をしてほしいと思います。</p> <p>答弁どうします。答弁要ります。</p> <p>いや、6月議会でやりますから。</p> <p>1番、中山議員</p> <p>山崎議員、忘れられますよ、それでは。</p> <p>それでは、議長、1点目質問したいと思います。</p> <p>79ページになるんですけども、ここに町民文化祭の事業費補助金、減額で23万8,000円、これは私が知っている限りでは、何かしら館地区、鶉地区の町民文化祭が中止になったと。本町だけ実施したと、その経緯について説明していただきたいと思います。</p> <p>次に、今のコーディネーターですけども、今回の何かチラシでコーディネーターの募集を町内のほうに配っていましたが、これは私も浜塚議員と一緒に、この4月からもう1年間全くコーディネーターがいない状態です。そういう中で何が原因なのか。これは教育委員会の中でも、やっぱりどうしたらいいのかということを実際に考えないと、なかなか募集だけで見つかるのかなというのが。議会それこそ報告会にも大変この辺強く、町は何やっているんだというようなことと言われました。</p> <p>それで私も社会教育委員でありますので、前の教育委員のとき言ったんですけども、待っているんじゃなくて、こっちから仕掛けるような形の中でコーディネーターの確保をしないと、こ</p>
--	--

これはなかなか専門的な分野ですので、例えば1つ教育長、学芸員的な要素で職員を募集するというようなことを教育林というのを踏まえた中で、それとうちのレクの森のあの重要な財産を管理するというようなことであれば、やっぱりこれはもう早急に見つけるべきじゃないかなというふうに思いますので、私も浜塚議員と同じような考えであります。

もう一点行きますけれども、83ページになるんですけども、ここに町の中学校の体育連盟補助金という150万円ほどがこれは減額されたんですけども、これは何か生徒の例えば大会に派遣する場合の補助金とかが今回はこの額で減額されたのかなと思っているんですけども、これはもし内容あったら説明していただきたいと思います。

もう一点は、84ページになります。

84ページの町民プールの管理人等の賃金87万9,000円と大きく減額されているんですけども、これはなぜこんなに大きく減額されたのかなと。

多分私の記憶で、たしか夏にちょっとトラブルがあって長期間何か休んだということを知っていますので、そのことがここに反映してきたのかなというふうに思いますけれども、もしそれであつたらそれで結構ですけども、その点について説明願いたいと思います。

教育委員会事務局長

まず、83ページ、中体連の補助金150万円マイナスということでございますけれども、こちらの費用につきましては、予算としましては中体連檜山大会及び全道大会の出場経費を予算として充てている状況です。

各いろいろ羽球とか卓球とかありますけれども、そちらの大会会場を事前に聞いて、参加することを前提として補助金予算として組んでいるんですけども、結果で出場できなかった場合に

議 長
教 育 委 員 会
事 務 局 長

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>については、その分、中学校のほうから補助金が返還されてきますので、実績による減ということで捉えていただきたいと思います。</p> <p>教育委員会主幹 まず、79ページの文化祭の関係でございます。</p> <p>文化祭は、平成30年度から館地区、鶉地区含めた下地区で1カ所の開催としております。中止ということではなくて、館地区、鶉地区、それぞれ運営にかかわっていただいた方々の高齢化ですとか、作品が集まらない、中学校の統合もありますけれども、そういったものを含めて地域から一つにしてはどうかという声がありまして、文化協会の中で話し合っ、じゃ、今年から1カ所で実施しましょうということで実施をしているところであります。</p> <p>その中で1カ所になりましたので、経費もその分浮いたというか、その分執行残として補正をしているところであります。</p> <p>次に、84ページのプールの管理人等の賃金ですけれども、御質問にもあったように、途中で17日間ほどプール閉鎖をしております。その部分と、5月20日からの開業ということになりましたけれども、当初もうちょっと早くやる予定でしたけれども、温度等が上がりず開設がちょっとずれたという部分で、その分の賃金を使用しなくて済んだ、その分を落としているということでございます。</p> <p>もう一つのレク森のいろいろ学芸員的な要素で配置ということですが、当然、学芸員ということになりますと、それなりの賃金といいますか処遇が必要になるわけで、その部分の財政的な部分で考えますと、ちょっと厳しい部分もあるのかなというふうに考えております。</p>
<p>議 長</p>	<p>1番、中山議員</p>

中山議員

なかなか多分行った女の子も、もともとは地域おこし協力隊員ということでうちに来てくれたという中で大変いい人材だったんですけれども、黒松内町のほうに行ってしまったということで大変残念に思っています。なかなかいい、切れる女の子で惜しいなど。将来は厚沢部町の嫁さんになってくれるんじゃないかなと思っていたんですけれども、なかなかそれは後の祭りですので、どうですか、教育長。

コーディネーターというのは、今のあそこのレクの森は、あそこの管理人的なものもやっっているながら、あそこの施設の森林館の管理人も兼ねた中でいろいろと頑張っていたかと、そしてPRもしていただくという中で、コーディネーターですので、いろいろとあそこの部分についての計画立案をしていくわけですので、その辺についての教育林に対する町の組織的にいって教育委員会でやるべきかどうかという話も出ていたんですよね。それを教育長はどう考えますか。

これからやっぱり、町長、これは教育林だから教育委員会に任せるんだというふうなことなのか、これは町の大事な財産を守っていくという意味であれば、もうちょっと町でも腰入れてもいいんじゃないかなというふうに思うんですけれども、何となく今宙ぶらりんになってしまって前に進んでいってないということなんですけれども、この辺、教育長やっぱり考え方をきちっと持たないと私はコーディネーターは来ないなということを思っていますので、その辺これからお互いに協議していかなきゃならないんじゃないかなと思います。

文化祭ですけれども、何回準備委員会やりましたか。文化祭を開催するか、しないかという、実施するか、しないかという、鶉地区、館地区で実施しようか、どうしようかという、そこが私は問題でないかなというふうに聞いているんですけれども、その辺についても説明していただきたいと思います。

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>教育委員会主幹</p> <p>文化祭の実施のあり方については、それぞれ館地区、鶉地区に説明をして、町内会等集まりの中で館地区、鶉地区、それぞれの地区で結論を持ってきてもらって、文化協会の中で結論、それぞれの地区の意見を聞いて決定をしております。</p> <p>その地区によっては2回、3回集まっているところもあると思いますし、1回で済んでいるところもあるかも知りませんが、少なくとも1回は集まりがその地域で持たれたというふうに思っています。そこに我々が行って説明しますかということも言いましたけれども、特に来なくてもいいということでしたので、特に委員会としてその場所には行っておりません。</p> <p>以上であります。</p>
<p>議 長 教 育 長</p>	<p>教育長</p> <p>まず、じゃ、今、主幹のほうからお話いたしました町民文化祭の件につきましては、私が受けている中でも、きちんと町民文化祭、文化協会の会長からも報告いただいておりますが、各鶉地区、館地区、下地区、それぞれできちんと話し合いをして、そして集まって、その合議を得た上での今年度統一開催となったということで伺っております。</p> <p>それは、何らどこかの合議をしないままということは一切ないということでの報告も得ておりますし、また、この町民文化祭のあり方については、今年度の反省をもって来年度は、より充実したものにしていこうという動きも、また文化協会会長のほうからも私は報告をいただいております。また、それに関しましても、教育委員会としましては協力は惜しまないつもりであります。</p> <p>それから、先ほど来御指摘いただいている教育林の管理のことに関しましては、本当に我々も</p>

先ほどと同じ説明になりますが手をこまねいていたわけでもありませんし、また、今議員の御指摘いただいたように、教育委員会だけではなくて、別なアプローチの仕方、また管理組織のあり方があるのではないかと。それはまたありがたい御指摘として、また今後に生かしていきたいと思えますけれども、今現状におきましては、学芸員というのは、また厚沢部町の伝承芸能文化祭等の保持、またはそれを教育に生かしていくというようなさまざまな活動もございますので、この教育林、レクの森遊歩道等のことに関しましては、また別途な捉え方をして募集をしていたところでもあります。

本当にこれも困ったところで、今お話があった黒松内町に行かれた方は実は私は一度もお会いしたことはないものですから、私が来たときにはもう既にこの町を離れられていたということもございまして、ただそういう人材を私も喉から手が出るほど欲しいんです。

また、賃金単価もきちんと町の基本的な金額に基づいて出しているものですから、それをここだけで変えることも、またできないということも御理解いただいて、その上での先ほどの話でございます。この事業の中にある草刈り、遊歩道の安全管理も含めて、ある金額でまとめた形で草刈りも安全管理も含めてどこかに委託できるなら、それも1つの町の中の事業としたら町の中で循環するべきお金になって、よりまた主体的な参加、管理もいただけるかなということでの1つの方策として今考えているところです。

と同時に、レクの森のさまざまな教育的な活用に関しては、当然教育委員会もさまざまな企画を持って、そういったもし委託ができるとしても、そこは連携をとりながら、より発展できるように進めていくことも、今教育委員会の中でも数度となく話し合いを持ちまして進めているところでございます。

議長
中山議員

次年度に関しましては、これは何らかの形で目に見える形の改善を図っていきたいということで進めておりますので、御理解をいただければと思います。

以上です。

1 番、中山議員

今教育長のほうからコーディネーターの話あったんですけれども、私、今道の駅を新しくするといった中でのあのエリアを、レクの森のエリアを町としてどう考えるのかと。そうなったときに、一回問題になったのは、あそこにはいろいろなレクの森に貴重な植物があるとか、遊歩道に対して歩くところに、大事なそういう我々のわからないような貴重な植物があるとか、それから、北限のいろいろ大事な山なんだよということであったわけですので、それが今もう全く何か、さっき山崎議員も言っていましたけれども、入るのに危険だという。私は見ていませんけれども、危険だよというようなことを言われたんですけれども、そういう意味では、今やはりあのエリアをもうちょっと町としても今これから力を入れた中で、何か聞くところによると1, 000人以上のあそこに見学者が来ているというようなデータもあるわけですので、そういう中では私はもうちょっと、あそこのレクの森を整備すべきでないかと。

最近あそこで遊歩百選、これは副町長あたりがわかっていると思うんですけれども、遊歩百選選ばれてから大変、今、遊歩百選といってもわからない町民たくさんいると思いますよ。事務局のところに行けばちゃんと遊歩百選張ってありますけれども、何かそれから、その後あの問題あってから、事件あってから、もう何かどこに遊歩百選行ってしまったのかもわからない状況だったということで、今、道の駅を改装するに当たって、あのエリアも私は考えた中でのそういう部分では学芸員的な、学芸員とは言わないですけれども、そういう専門にやっていただく職員を採

議 長
教 育 長

用すべきではないかなというふうに思います。

文化祭ですけれども、ちょっとしつこいようなんですけれども、3町一緒になってやるのであれば、3町一緒になって、厚沢部町できちっと大きい文化祭やるというふうな方向で進めていくべきでないかなと。去年話に聞くと、全く館地区からの出品がなかったというような話聞いていますので、そうじゃなくて、町民一丸となって文化祭を開催するんだというような方向でもっていくべきでないかなというふうに思うんですけれども、その辺について、今年の31年度に向けての心構えを聞きたいなと思います。

教育長

まず、レクの森、教育林のあり方に関しては、議員からの応援というふうにいただいて、そのお言葉も今後のまたあり方、またさまざまな教育委員会のみならず、町の中で横断的な協力を得ながら進めていってほしいということのお言葉というふうに理解をいたしました。

また、よりよい、先ほど来ありました、山崎議員からもありましたように、私も遊歩道の考え方の優先順位は安全に、かつそして快適にそこを回ることできるということを第一優先に考えて次年度は管理運営していきたいと考えております。

自然保護云々ということもあって、以前苦情をいただいて、すぐによけたんですけれども、倒木があったまま、それもまた自然管理の状態だというふうには私は考えておりません。あくまでも、そこは遊歩道としての管理ですから空間も含め安全管理をしなきゃならないと。議員御指摘のとおり同じように考えておりますので、それを御理解ください。

その上でのあくまでも自然保護というのは、その遊歩道のみならず、全て町内全部に自然はたくさんあふれているわけですから、その自然保護も含めての考えを今後していかなきゃならな

<p>議長 只野議員</p>	<p>いだろうというふうに理解をしております。</p> <p>それから、町民文化祭に関しましては、これも先ほど来申しましたように、本当に今回、館地区からは出品いただいているんです。ただ、なぜか残念寂しいことに鶉地区からはいただかなかった。ただ、それも含めて、それも改善の検討課題としての次年度に申し送り、当然、文化協会の会長も含め考えているところです。</p> <p>それから、町民文化祭のあり方、午前、午後のきちんとした切りかえのあり方、そして盛り上げ方等についても、先ほど申し上げましたようにきちんとまた考えながら、実は案もあります。それをもって次年度の中では提案をしてやっていけるというふうに考えております。</p> <p>以上です。</p> <p>7番、只野議員</p> <p>82ページのコーディネーターの賃金のことなんですけれども、多分この204万7,000円は、そのまま該当者がいなかったのではないかなと思うんですけれども、それで今月初めまた回覧が来て募集あったんですよ。それで、とりあえず4月1日から9月30日までの中で、そして10月から更新もあるというんですけれども、この冬期間でも仕事の内容というのはあるんですか、コーディネーターの。</p> <p>そして、資格がアウトドアガイド、自然体験活動の経験のある方とあるんですけれども、今先ほど下川部議員が言われたように、厚沢部町、林業に従事している方かなりいるんですよ。それで経験豊富な林業に従事している方も、この資格の中に入れてはどうでしょうか。</p> <p>それと、その下の報償費の中、森の案内人報償費、これはやはりコーディネーターと関連性があるって減額になっているんでしょうか。</p>
--------------------	--

<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>以上、これだけお答えいただきたい。 教育委員会主幹 現在も4月1日からの雇用ということで、回覧を回しているところであります。資格についてはいろいろと書いてありますけれども、そういう方がいれば一番望ましいわけですが、中でも希望がある方がいれば、ぜひ面談等をしていければなというふうに思っております。</p>
<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>82ページの森の案内人の報償費7万2,000円の減ですけれども、以前、盛んに森の案内人が案内しておりましたけれども、これは案内する方も高齢化になっていまして、30年度の実績がゼロということになっています。その分の減額の補正ということであります。</p>
<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>通年雇用について。 とりあえず4月1日から9月30日ということで更新ありということで、前にいた方も通年雇用という形で、冬場の仕事もある通年雇用しておりました。 以上です。（発言する声あり）半年更新で、更新した場合も冬場の仕事もあります。</p>
<p>議 長 教育委員会主幹</p>	<p>あくまでも臨時職員で半年更新。 そうです。</p>
<p>議 長 教 育 長</p>	<p>教育長 今申しましたように、先ほど来の賃金も臨時職員ということでの町の賃金体系にのっとったもので、ですから、同じように4月から9月末まで、それから10月から3月末までという、その都度更新を、いわゆる契約をして更新をしているという状況です。ですから、当然冬もまたその仕事はありますし、管理上のこともやっていただいております。 以上です。</p>

議
町

長
長

町長

コーディネーターで大変今苦勞していると、こういうことでございます。代々厚沢部町のレクの森のコーディネーターというのは、皆様方御承知のように、前回までいた水本君、彼女は親がそういう方面のコーディネーターをやっておりまして、彼女もそういう道を選んだ。そして、先ほどお話ありましたように、黒松内町の北限のブナを調査したいのが私の夢ですという、その夢は黒松内町に移ったと、こういう経緯があるんです。

水本君の前は野村君という男であります。全部これは6カ月の雇用の中で、ずっと代々教育委員会はやってきた。いつの間にか、そういう専門的なものでなきゃ駄目だという、そんな考え方が入ってきている。これは、もともとは教育委員会も社会教育の職員が兼ねてやったものですこれは。そういう中で、それぞれの水本君でも野村君でも専門家をつかみながら、あそこのレクの森。

レクの森、町に移管されてから何年たつかおわかりだろうと思います。あれは5億何千万円出して町が営林署から買い取ったレクの森、それは教育委員会で――5億円じゃない。（3億円の声あり）3億円。2カ所合わせて5億7,000万円で買い取った山です。町が国有林から。そして、それを教育委員会に専門にこれを整備しながらレクの森として設定して、学習林として設置をして町民に開放する、町民以外にも開放する、こういうことで管理をしてきている。

それだけでは何となく管理しづらいというんで、あそこにバンガローの3棟を設置して、そして夏場はそういう表の人が入れるような、そういう場所につくり上げた。

しかし、その管理する者、が今冬場は、じゃ、先ほどの話ありますけれども、どれだけ仕事があるか、通年してやっておりますなんていう話の中で、これがそもそも集まらない一番の原因、

職員がそんな考え方だから誰も来ない。私はもうつくづくそう思う。

これは協力隊でずっと来ているということをもう少し真剣に、協力隊を募集したことありますか、教育委員会で。そういう行動も起こさないで、ただ今、職員を入れますみたいな話をして、いささか私もこういう行政ってあるのかなというふうに今疑問に思っていました。そういうちょっとその辺が考え方が違うなという思いをしたもんですから、今あえて私が補足をするという話であります。

いずれにしても、あれだけのいい場所で毎年通路なり何なりを整備をしながら今まで来た。その来た中で、今まであそこはいろいろな経緯がありますけれども、中山議員知っているとおり、自然保護の皆さん方が手をかけるなという大暴動を起こしたこともある。はっきり言うと。川の人、鳥の人、草木の人が三者集まって、わんわん言って大変なトラブルしたことあった。草刈りの委託を受けた細畑造材が全部仕事、破棄されてしまったと、こういう経緯もあります。

だから、どこからもそういうふうに自然として最高の場所であるというふうに見られ方している場所なわけですから、それなりの整備をしながら管理をすると。

ですから、あそこのセンターには今何人おるんだ。2人か。（夏ですかの声あり）夏。（発言する声あり）今、レクの森の管理棟に2人置いて、そういうふうな前から見たら驚きの話だ。だから、そういうことをもう少し担当としてきちっと考えさせる機会にします。

そんなことでレクの森は、いずれにしても、ただ民間委託するとか、そんなばかげた話もさっき聞きましたけれども、そんなことなんてあり得ない。町の教育林というのは、学校林と教育林は町の責任管轄、こういうことをきちっとわからせるためにも私のほうで教育をします。教育委員会に教育をして終わります。

議	長	議事の途中ですが、16時10分まで休憩します。(15:59)
議	長	休憩前に引き続き会議を開きます。(16:10)
議	長	議事を続行いたします。
議	長	8款土木費から10款教育費まで質疑ありませんか。
下川部議員	長	6番、下川部議員
議	長	77ページの学校給食費が13万9,000円減になった内訳をお願いします。
教育委員会事務局	長	教育委員会事務局
議	長	扶助費の話ですよね。こちらにつきましては、就学援助費、それぞれ就学奨励費というものがございまして、予算の段階では、対象人数、学校給食援助費であれば17人で見込んでいたものが実績で12人、就学奨励費での給食の部分であれば3人で見込んでいたものが2人ということで、実績が少なくなりましたので、その分に関する分の減額になります。
下川部議員	長	6番、下川部議員
		1月末に鶉地区にて議会報告会がありまして、学校給食に関して質問をいただいたわけですが、ある子供持ちの親御さんのほうから学校給食が足りないと。毎日のように、帰ってくるたびに子供がおなかすいたと帰ってくると。それがたまにじゃなくて、ほぼ毎日腹減ったと。だから、もう給食が足りないんじゃないかと。学校に言っても、その分カロリー計算をしているの回答で終わっていると。
		それを改善するためにはどうしたらいいんでしょうかという話を再三議会報告会で我々議員全員ここで聞いているわけですがけれども、教育委員会のほうでもアンケート等やさまざまな部分でいろいろ量が少ないとか多いとかとやっていると思うんですけれども、実際私も中学生の子供を

持つ親の1人でもありますから、ちょっと聞いてみたんです。そうしたら、体が小さい子は食べられないとか、体が大きい子は足りないとか、誰かが1人休むと、その分が回ってくるから満足するとかという感じなんですけれども、実際は誰も休まず定員であれば正直言って足りないと思うと。

それは、もう体形とかもあるんですけれども、どうしても、うちの息子は百名七十一、二身長あるんですけれども、同じような体形が三、四人いるらしいんですけれども、みんなして同じ子供が足りない。でも、足りないけれども、わがままを言って足りないとも毎回毎回言っているし我慢していると、実際は。でも、栄養士さんにも、その話をしているんだと。足りない。でも、足りないという子供たちの数が少人数のために多分意見を聞いてもらえないんじゃないかと。

それを毎度言うのも、子供ながらに気の毒、気を使うというのもあったらしく、正直言って給食を食べて2時半、3時ぐらいになるとおなかですいてくると。正直言っておにぎりとか、そういったものは持っていきたいのは事実で、鶉地区の親御さんも全く同じで、もしあれだったら、学校に持って行く例えば保護者の全ての責任でおにぎりを持たせて、何か例えば問題があったときに親が全部責任をとるならいいんじゃないかとまで言われたんですけれども、そういう部分に関してどうなのでしょう。

新年度に向けて教育委員会は、今ここでこういう話をしたんですけれども、何か改善の策はあるのでしょうか。

教育委員会事務局長

今の給食足りないという話は、実際先日、給食センターの運営委員会ありまして、そのときに

議 長
教 育 委 員 会

<p>事務局 長</p>	<p>P T Aの会長も出席されていたので私も直接伺いました。</p> <p>給食センター始まったときには、本人の嗜好の状況ですとか、給食の量もそうなんですけれども、それとあわせて、やはり家庭での朝食のとってくる度合い、どういう形できちんと3食食べているのかというような調査も実際していた経過ございます。</p> <p>本人も、会長のほうもお話されていたんですけども、今議員がおっしゃられたように体格の関係。女子と男子は違います。女子は多いという方もいますし、この前のアンケートですと女子のほうが多いという傾向がありますし、一般の方というか、真ん中のちょうどいいという方も大体7割はいるんですけども、実際今おっしゃられたように体格の大きい子が毎日おなかをすかせているという形になると、うちとしても、その状況をもう一度ある程度、定期にはなるんですけども、その一定の期間でおなかすいていると思ったときには、昼食とか朝の御飯をきちんと食べてきているかどうかとかいうものもひっくるめて、そういう調査を進めていきたいと思えます。</p> <p>それで、もし全体的にまた少ないという数がある程度出てきたときには、センターとしてもその部分について量をどうするか、こうするかというものを栄養教諭と話し合っ、ある程度試行するというか、そういうようなことも必要なのかなと考えているところではございます。</p>
<p>議 長 下川部 議員</p>	<p>6番、下川部議員</p> <p>そうですね、ぜひそういったことを積極的にやってもらいたいんですけども、よその子供の話をたくさん聞くんですけども、うちの子供なんかは、朝、丼で1杯から2杯食べる時もあるんですけども、1日4食食べるんですよ。結局は自分の体づくりというのも含めて無理して食べているのもあるんですけども、どうしても日中、昼間なんかはどうしても体力を消耗す</p>

		<p>る、カロリーを消費する時間帯だと思っています。</p> <p>そこで一番食べなきゃいけない時間帯に量が少ないと、いろいろと体にも支障も出ると思うんで、成長盛り、中学生から高校にかけては、もう体が一番成長する時期であるのは事務局長も御存じだと思っので、その分も含めてきちんと親御さんの意見も取り入れながら、新年度はこういった問題が二度と出ないように改善していただければと思います。</p>
議	長	ほかに質疑ありませんか。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（発言する声なし）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第8号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第8号平成30年度厚沢部町一般会計補正予算、原案どおり可決されました。
税務財政課	長	ありがとうございました。
議	長	日程第7 議案第9号平成30年度厚沢部町国民健康保険事業特別会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	保健福祉課長
保健福祉課	長	議案第9号の平成30年度厚沢部町国民健康保険事業特別会計補正予算の内容について御説明いたします。（議案内容説明省略）

議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	歳入歳出全般について質疑ありませんか。ページ数は5ページから22ページまでです。質疑ありませんか。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第9号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第9号平成30年度厚沢部町国民健康保険事業特別会計補正予算、原案どおり可決されました。
保健福祉課長	長	ありがとうございました。
議	長	日程第8、議案第10号平成30年度厚沢部町後期高齢者医療特別会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	保健福祉課長
保健福祉課長	長	議案第10号の平成30年度厚沢部町後期高齢者医療特別会計補正予算の内容について御説明いたします。（議案内容説明省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	歳入歳出全般について質疑ありませんか。5ページから13ページまでです。質疑ありませんか。（ありませんの声あり）

議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第10号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第10号平成30年度厚沢部町後期高齢者医療特別会計補正予算、原案どおり可決されました。
保健福祉課長	長	ありがとうございました。
議	長	日程第9、議案第11号平成30年度厚沢部町介護保険事業特別会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	保健福祉課長
保健福祉課長	長	議案第11号の平成30年度厚沢部町介護保険事業特別会計補正予算の内容について御説明いたします。（議案内容説明省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	歳入歳出全般について質疑ありませんか。ページ数は、7ページから26ページまで及び29ページから31ページまでです。（ありませんの声あり）
議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。

議	長	議案第11号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第11号平成30年度厚沢部町介護保険事業特別会計補正予算、原案どおり可決されました。
保健福祉課	長	ありがとうございました。
議	長	日程第10、議案第12号平成30年度厚沢部町簡易水道事業特別会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	建設水道課長
建設水道課	長	議案第12号の平成30年度厚沢部町簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）の内容について説明いたします。（議案内容説明省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	歳入歳出全般について質疑ありませんか。6ページから19ページまでです。質疑ありませんか。（ありませんの声あり）
議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第12号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第12号平成30年度厚沢部町簡易水道事業特別会計

		補正予算、原案どおり可決されました。
建設水道課長		ありがとうございました。
議	長	日程第11、議案第13号平成30年度厚沢部町農業集落排水事業特別会計補正予算、議題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	建設水道課長
建設水道課長		議案第13号の平成30年度厚沢部町農業集落排水事業特別会計補正予算（第3号）の内容について説明いたします。（議案内容説明省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	歳入歳出全般について質疑ありませんか。6ページから15ページまでです。（ありませんの声あり）
議	長	質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第13号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第13号平成30年度厚沢部町農業集落排水事業特別会計補正予算、原案どおり可決されました。
建設水道課長		ありがとうございました。
議	長	日程第12、議案第14号平成30年度厚沢部町国民健康保険病院事業特別会計補正予算、議

		題とします。
議	長	議案の説明を求めます。
議	長	病院事務長
病 院 事 務 長	長	議案第14号平成30年度厚沢部町国民健康保険病院事業特別会計補正予算（第1号）の内容について御説明いたします。（議案内容説明省略）
議	長	説明が終わりましたので、質疑に入ります。
議	長	収入支出について質疑ありませんか。13ページから15ページまでです。（発言する声なし）
議	長	それでは、質疑を終結します。
議	長	討論に入ります。（ありませんの声あり）
議	長	討論を終結します。
議	長	議案第14号、原案どおり決したいと思います。これに御異議ありませんか。（異議なしの声あり）
議	長	異議なしと認めます。したがって、議案第14号平成30年度厚沢部町国民健康保険病院事業特別会計補正予算、原案どおり可決されました。
病 院 事 務 長	長	ありがとうございました。
議	長	議事の途中ですが、本日はこれをもって散会します。
議	長	あすは午前10時より開会いたします。
議	長	本日は御苦労さまでした。（16：49）